ガンからの生環100人の記録

ガンに勝った尿療法

医学博士　佐野　鎌太郎 著編

発行 ㈱日経企画出版局

ガンに勝った尿療法

佐野外科医院100名の生還記録

著編○佐野鎌太郎

はじめに

尿療法を中尾良一先生より耳にし、秘そかに自分に生体実験をすること3年、その後私の病院の事務長、看護婦長を始め全職員に実行して貰い、更に私を信頼する患者さんの有志の方々にも実行して頂いてから、はや7年を越そうとしている。

その後、健康の専門誌である「壮快」に記載され、日本テレビを始めとする各テレビで放映されるや、この尿療法は尿ブームとなり、全国に大きな反響を巻き起こしている。

些かの好転反応を除いては、この尿療法は、己の身から出た血液の分身であるが故に、副作用は全然無く、リウマチ、痛風、高血圧、狭心症、脳梗塞等、遂には不治の病とされている癌を含めて、あらゆる分野に、奇跡的な効果を示すことが、「壮快」に寄せられる投書、又我々に寄せられる電話及び感謝にあふれる手紙等で、明らかになってきた。

健康に関心を持つ我々日本人は、自分の健康を保持せんが為に、医師にかかり、又薬局より薬を求め、まさに日本人の体は、薬づけと言っても過言ではない現状である。

医療費も年々その増加の一途を辿り、国の財政を圧迫している事も事実である。

数多くの薬の中には、薬自体に発癌性のあることが報告されている。

この様な時に、尿療法が広く社会に普及し、我々人間の健康維持、老化防止、ガンの予防、及び治療に役立つことを確信し、この書を世に出し、諸賢の御批判を仰げれば幸いである。

平成三年六月吉日　佐野鎌太郎

ガンに勝った尿療法／目次

はじめに……佐野鎌太郎 1

第1章　尿は万病に効果あり

1・1　尿は万病に効果あり……佐野鎌太郎

1・2　脳梗塞で右半身マヒと言語障害が治り仕事に復帰・富沢とよ子 41……15

1・3　１８０もあった血圧が今では１３０で安定・矢崎　実 66……18

1・4　輸血による血性肝炎がすっかり正常に・野中　照子 71……21

1・5　１００もあったGOT・GPTが半年後には正常に・角田　富宏 52……23

1・6　腸の癒着、五十肩、パーキンソン病が治った・小林千恵子 55……25

1・7　更年期障害のひどい頭痛と嘔吐に悩まされたが・村越　幸子 47……27

1・8　脳梗塞のつらさが一枚一枚はがれるように・佐野　義光 62……29

1・9　原因不明のストレスがとれ不眠症も治った・吉野　瑞夫 56……32

1・10　花粉症と冷え症がいつの間にか消えていた・石川　大55……35
1・11　右手首のけんしょう炎がウソのように消えた・大久保保男64……37
1・12　突然眼の前にシャボン玉がフワリフワリ・斎藤　幸子59……39
1・13　右手首にとび出していた軟骨が無くなった・臼井美恵子30……41
1・14　自殺すら考えたひどい円形脱毛症であったが・相沢　裕子26……43
1・15　激務に耐える気力と体力を確保できた・佐藤　学32……47
1・16　5年間も耐え忍んできたリウマチの激痛から解放・佐藤　哲也67……49
1・17　永年患った痔、肩こり、脱肛、腹痛より解放されて・秋野　秀雄53……52
1・18　快方に向かい始めた私のベーチュット病・川村　優子39……54
1・19　アルコール依存症の酒乱、幻覚、幻聴がどこかへ・矢崎　憩子43……58
1・20　心筋梗塞による心臓の筋肉の障害がなくなった・朝田　裕子49……62
1・21　業病リウマチも望みなきに非ず・高橋　敏恵53……64
1・22　全身にできた赤い斑点がみるみる消えていった・百武　正義37……66
1・23　股のタムシが治り白髪の4分の1が黒くなる・石田　徹58……69
1・24　300もあった血糖値が今では110に・貫井　英雄73……71
1・25　白内障が快方、眼鏡なしで新聞が読める・蛭川　文江77……74
1・26　15年間苦しんだ慢性湿疹が治った・臼井　年光42……77
1・27　成人病とアレルギー性鼻炎が完治・花村　光浩55……79
1・28　あれほどひどかった喘息と鼻炎から脱却・佐野　春江58……82
1・29　足腰の神経痛がやわらいだ・金井　里子75……85
1・30　快食、快眠、快便の三拍子揃って大ハシャギ・杉浦　マサ50……86
1・31　足首の脂肪のかたまりが二カ月でとれた・加藤　よし68……87
1・32　便秘と不眠症から解放された・山岸　章二39……88
1・33　あれほど悩んでいた肩こりがなくなった・佐藤　愛子65……89

第2章　ガンと知ってガンと戦う

2・1　ガンはどうして出来るか、そのメカニズムについて……佐野鎌太郎
2・2　ガンは慢性且つ全身の老化病である……佐野鎌太郎
2・3　ガンと知って、ガンと戦う……佐野鎌太郎
2・4　ガンを告知するとガン病棟が明るくなる……佐野鎌太郎

2・5　ケースA／肝臓ガン・水沢　重郎48……110
2・6　ケースB／悪性リンパ腫・長崎光一郎56……114
2・7　ケースC／肺臓ガン・小山　常雄63……116
2・8　ケースD／骨ガン・石川　恒美43……118
2・9　ケースE／腎臓ガン・天野　和絵54……124

第3章　ガンに対する私の治療方針

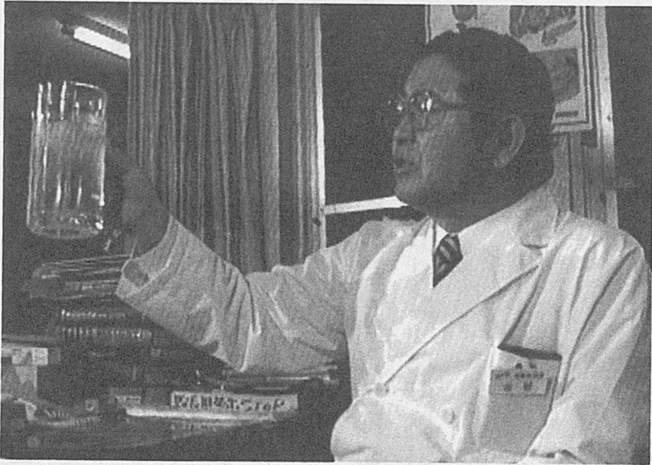
3・1　ガンに対する私の治療方針……佐野鎌太郎
3・2　ケースA／肝臓ガン・谷村　進60……134
3・3　ケースB／食道ガン・古田　登58……136
3・4　ケースC／乳ガン、骨、肝転移・遠藤　敏子56……139
3・5　ケースD／肝臓ガン、総胆管ガン・畠山由美子53……141
3・6　ケースE／子宮筋腫、卵巣ガン・上野かよ子50……144
3・7　ケースF／食道ガン・佐藤　伸子57……149

第4章　尿療法によるガン勝利者の声

4・1　ガンにまで効く尿療法……佐野鎌太郎
4・2　どうせ直腸ガンで1年後に死ぬのだから・渡辺　信50……160
4・3　胃ガンであと半年の命とまで言われたが・土橋　定一63……164
4・4　悪性リンパ腫を知って・杉本　宏40……168
4・5　結腸ガンが肝臓に転移していた・北野　作助53……170
4・6　四年前に手術した甲状腺ガンの再発もなく・佐野　愛子50……174
4・7　5㎝ほどの肝臓ガンが1㎝にまで縮小した・吉田　三郎54……176
4・8　重症の直腸ガンを克服して12年・丸山　勇57……179
4・9　ガンのため直腸の太さが5分の1に・高田　善道62……185
おわりに……佐野鎌太郎188

☆ 第1章

尿は万病に効果あり



１・１　尿は万病に効果あり

佐野鎌太郎

甲府市で内科医を開業している中尾良一先生は、医師になりたての昭和12年、淋病の痛さで麻薬中毒になっている患者に、何らの術も無い時、尿は万病に効く、と言う祖母の言葉を思い出し、その患者に飲尿をすすめた。

翌日不安で胸高まる思いを押えつつ、その患者の来院を待っていたが、午後になっても来院せず、益々不安になったが、夕方近く、その患者が現われて、「先生お陰さんでよくなりましたよ」、と言う患者の言葉を聞き、「成程尿は効くもんじゃわい」、とお思いになり、安堵の胸をおろした。

その後先生は、ビルマのインパール作戦に参加し、戦場でこれという薬も無い環境下で、デング熱、マラリヤ、淋病等、種々の病に苦しむ数千人の兵士に飲尿をすすめ、尿の治療効果の偉大さを再確認する機会を得た。

終戦後、抗生物質を始めとする様々の医薬品の開発により、先生の頭からこ

の尿療法は消え去っていった。

ここ数年前より、エイズと言う難病が現われ、先生はフト、尿療法を思い出し、エイズにも効果があるに違いないと思ったが、悲しい事に山々に恵まれた山紫水明の山梨県甲府では、エイズの患者に遭遇する機会は無かった。

だが、昨今の医学界を見ると、様々な医薬品が溢れ、薬好きの日本人は、東洋医学の養生と言う言葉を忘れ、医薬品にのみ頼ることによって薬漬けという現象が大きな社会問題にもなりつつあった。

地方の健康講演会、医学雑誌、医学協会等の講演会などに飲尿療法を披露したが、尿は不潔で排泄物であるという固定観念は、中々ぬぐい去れなかった。

中尾先生の主催する開業医の勉強会に、初めて私が参加したのは、今から7年半前である。老医師の綿々と説く尿の効果は、現代医学を学んで来た我々若年の医師達には、むしろこっけいにさえ思えた。

東京女子医大に在局中に、ガンの手術を教えて頂いた世界的ガンの権威、中山恒明教授の、坐右銘の「人生は経験である」という言葉をフト思い出し、私は中尾先生の熱意に打たれて、秘かに飲尿を開始した。自分で試みる事2年、

薄くなりかけた頭髪は黒く太くなり、永年やっていた柔道を止めた後の、肩こりは解消し、糖尿病の一歩手前の血糖値は70以下に低下するという好結果を得た。

毒性なき事を確かめた後、私の信頼する職員に告げた処、全員一人残らず飲尿に踏み切ってくれた。その結果「血圧は安定した」「白内障が治った」「狭心症が解消した」「脳血栓が治癒し、水虫が治った」「冷え症、便秘症が治った」、と言う様々な好結果が続出し、自信を得た私は、外来患者にも飲尿をすすめる事により、前記の好成績が患者にも現われる事を再確認した。

3年前より健康の雑誌である壮快に、尿療法が取り上げられるや、尿療法に関する問い合わせが殺到し、殆んど午前中の診療が不可能な状態になった。その様な状態でも、私を喜ばせ力付けた事は、現代医学で治らない様々な難病が好転した、という感謝に溢れた患者の声であった。

人命を預かる職にある者にとって、軽率な態度は許されない。更に慎重を期すべく「壮快」の編集担当者に、毎日の如く電話をかけ、尿療法による不都合な自体が発生していないか、という事を確認した処、自分でも不思議に思える

程、万病に効果があり、しいて副作用と言えば、体調が好転する際に起る好転反応とも言うべき、発熱、発疹、食欲減退、下痢等であったが、これらは個人差はあっても、そう長く続くものではなかった。

その後救われた患者さんが、嬉しさの余りに近親者、友人達に尿療法をすすめ、好成績を得た人々が、又その近親者、友人達に尿療法をすすめる事によって、尿療法の輪は日に日に広り、社会の各層に浸透してゆき、今や飲尿により、健康を享受している者は、100万人を超えると言われる。

雑誌「壮快」も、月々50万部の発行数を誇り、中尾先生の名著、「奇跡の起る尿療法」「続奇跡の起る尿療法」はベストセラーを重ね、今やロングセラーの姿を呈している。尿療法は一人歩きを始めたのである。

そして日本国内のみならず、韓国、中国、インドネシヤ、マレーシヤ、台湾、フランス、ブラジル等世界の各国より尿療法の問い合わせが殺到し、先生の著書の英訳も着々と進んでいる。

1・2 脳梗塞で右半身マヒと言語障害が治り仕事に復帰

佐野外科医院看護婦主任　富沢とよ子　41才

健康には特に気を付けていませんでしたが、小さい頃から病気らしい病気にはかからず、三十七才まで過ぎました。家事に仕事におわれ、いそがしさに食生活がおろそかになり、スーパーで売っている物や出前ばかりで手料理等忘れてしまい、今考えると恐ろしくなります。

三十八才の時突然に激しい頭痛に襲われ、一週間位い痛みが続き、痛み止めを毎月数回飲んでいました。

目も悪いため、目の方からの頭痛と思い、眼科に行ったりしていた時、突然に倒れてしまい、車いすの生活になり、入院しました。脳外科の診断で脳梗塞という病名でした。右半身マヒになり言語障害が起こり、水も口にする事ができなくなり、二カ月が過ぎた頃、リハビリや薬のおかげで少しずつ落ち着き、小さい子供

も家にいる事から退院する事になり、家に帰っても小さい音も耳に響き、ノイローゼの様な状態に落ち入り、家族も不安の日々の様でした。

六カ月が過ぎた頃、薬の副作用で肝臓部が重苦しく、顔色は黒ずんでシミが多く目立ち、肝機能のデーターが上がり佐野院長先生に「お前、こんな薬や不規則の生活をしていると今に癌の病気になるぞ、悪い事はいわんから朝一番の尿をコップ一杯飲め」といわれ、おそるおそる尿を口にしました。

初めの一週間は目をつむり一気に飲み、味も何も夢中で飲みました。

二週間目より前の日の食事の塩分の多い少ない甘いがわかり、食事も気を付ける様に自然となり、二カ月、三カ月と過ぎる内に肝部の重苦しさや頭の重い事もなくなってきていました。

背中肩の湿布もしなくてもすみ、毎日が楽しくなり、一日一日うす紙をはがす様によくなっている事は家族にとっては大変の喜びでした。



二年を過ぎた頃、肝機能も正常に近い状態になり脳外科のＭＲＩ検査では、脳の動脈のつまりが取れたと言われ、不思議だとも言われました。病気になった時、一生あなたは薬は離せませんよと言われていましたので、「うれしくて、うれしくて」佐野先生の処にすぐに行き、その事を話しました。

先生は「俺の言う事に間違いはない」と喜んで下さり、天にも昇る気持ちでした。それから毎日続けていて、今では佐野先生のおかげで又看護婦として働く事ができ、毎日がすごく楽しいです。

私は尿のおかげで血圧や肩こり脳梗塞が治り、今は一日朝・夕飲む事により気持ちもほがらかになり、家族もだんだんと飲尿する様になっています。尿療法は健康のバロメーターだと思って行っています。

健康バンザイ。尿療法カンパイ。

佐野先生ありがとうございましたという気持ちです。

1・3　180もあった血圧が今では130で安定

佐野外科医院事務長　矢崎　実　66才

昭和63年の秋、私の勤務する病院の佐野院長先生から、ある朝突然に、今まで自分一人で試飲していたが、実は尿は大変な効果のあるものである、旨の話を聞かされた。

当時私は永年の高血圧症、耳なり、左膝関節炎、心筋梗塞の前兆、又胃潰瘍と、さまざまな病気を抱えていたので、院長の話を聞くや否や、紙コップを持ってトイレに行き、早速何も考えずにぐいと飲み干したのだ。

流石に初体験の味は厳しかった。無理もない、子供の時から汚いものの代表的言葉が、ウンチとオシッコの二つであったからです。然しそれも最初の一発であって、次からはもう何の雑念も湧かず、その日から今日まで3年間を過ぎて来た。

最初に効果の現れたのは血圧である。常に一八〇以上あったものが、次第に



安定して一三〇代になり、従って最低も八〇を切る様になって、先ずは第一ハードルを越えた感があった。

それから院長先生が常に心配してくれた心臓も、いつの間にか心電図も正常に戻り、同時に時々起こっていた心臓発作も、何時か忘れてしまう様な結果になっていった。

確かに尿は天から与えられた妙薬と言っても過言ではない。その頃になると院長先生からすすめられて、多勢の患者さん達も飲尿を始め、皆それぞれの効果を見出して、喜び合っていた。

壮快やテレビで、全国的に報道されるや、全国津々浦々から尿の問い合わせ電話が殺到し始め、私達窓口で受付ける者にとって、一種のパニックとも言える状態が起こった。

もうそんな頃には、自分が膝が痛かった、などという事は忘れ去り、一体どちら側の膝が痛かったのだろ

う、とさえ迷う様な次第、すっかり本来の自分の健康な体へと戻って行った。
　尿療法を語る時、常に問題となるのが好転反応である。どういうわけか私はなかなか好転反応が起きなかった。それがここ一年位、早朝に水の様な下痢に見舞われた時が続いた。一日一回、全然腹痛もなければ、しぶりもしない爽快な下痢ではあったが、通勤の途中でもよおす時には些か困却した。
　これとても、そう長く続くものではなく、現在は平静である。それだけに便秘もなくなり、かつてあった痔の気もすっかり影をひそめてしまった。
　私は一日に数人の方々から飲尿の事を聞かれるが、何を迷っていられるのか不思議でならない。今私の勤める病院には、多勢のガン患者さん達が入院されているが、皆さんそろって尿を飲み、その他の療法とも併せて、すっかり元気になって明るい笑顔で退院の日を待っている人達ばかりである。
　読者の方々も、迷わずに飲尿に踏み切り、元気で健康な暮らしを手中にして欲しいと、心から思います。

1・4　輸血による血性肝炎がすっかり正常に

佐野外科医院看護婦総婦長　野中　照子　71才

　私が尿療法を始めたのは、今から三年前です。はじめ血圧が二百十、下が百三十と高血圧に悩まされ、一年半程お薬を飲みましたが、なかなか下がらず気分の悪い毎日でした。
　尿を飲む様になり、いつの間にか目まい、気分の悪さも消えている事に気付きました。夜勤も続いてやると足がつっぱり痛くて、硬直して動かない時もしばしばありましたが、それもなくなり体が軽くなり、時がたつにつれ忘れてしまうこの頃です。
　九年前胆石の手術をし、輸血も一万と多量にしたので、血性肝炎を併発し、長い間肝臓も悪かったのですが、現在はすっかり平常にもどりました。
　それに髪の毛も二カ月に一回は染めないと白髪になるのが、四カ月位保つ様になり、視力も現在七十一才になりますが、読書にも不自由なくメガネの世話

にならずに過ごしております。

尿療法を先生よりすすめられ、始めた頃はそれ程体にきくとは思いませんでしたが、こうやって三年間飲み続けておりますと、いかに妙薬という事が私の体験でわかっていただけると思います。

私達は現在病に苦しんでいらっしゃる方々のためにも、今まで不潔だと思っていた尿が世にも稀な妙薬だという事を、一人でも多くの方々に知っていただき、実行し病から快方に向かって頂きたいと思います。



1・5　100もあったGOT・GPTが半年後には正常に

佐野外科医院リハビリ部長　角田　富宏　52才

私は尿を飲み始めてから、約4年経ちます。毎朝起きてコップ一杯を、また午前、午後に一杯ずつ飲んでいます。

飲尿を始めて約一カ月で水虫が、約半年位で慢性肝炎が治りました。私の飲尿の動機は、佐野外科の院長先生から、尿を飲むと難病や慢性疾患が治るという話を聞いたからです。そこで私は、その持病を尿を飲んで治すことにしました。

飲んでみると、あまり抵抗もなく、簡単に飲む事が出来ました。それ迄どんな薬を塗布しても治らなかった水虫が、一カ月位で簡単に治る事が判りました。水虫で悩んでいる方は、一日も早く尿を飲んで下さい。必ず治ります。

私はその他に、もうひとつ慢性病があります。それは肝炎という病気でした。この病気は悪化すると、肝硬変や肝臓ガンになる、と言われています。私の父

は40才代で肝臓ガンで死亡しました。

二十年前に血液検査で肝臓病が発見され、GOT、GPTの数値が90〜100位ありました。毎日注射をしたり、薬を飲んで治療していても数値は変わりません。処が尿を飲むことによって、しだいに数値が下がって来ました。約半年後には正常値になりました。

現代は何の治療をしなくても、飲尿療法だけで別に悪くはなりません。二十年間悩んだ慢性病が、自分の尿を飲んで治るという事がわかりました。

今は毎日飲まなくてはいられなくなりました。健康の水は自分の尿です。慢性肝炎で悩んでいる方も、一日も早く自分の尿を飲んでみたら如何ですか、必ずよくなります。



1・6 腸の癒着、五十肩、パーキンソン病が治った

佐野外科医院看護助手　小林　千恵子　55才

私が朝一杯の尿療法を始めたのは二年と八カ月くらい前になります。

ある日、院長先生が私の手の爪に気が付いてからです。私の爪が反り、割めが出ているのに気付き、「これは貧血のため、尿を飲むように」といわれました。

尿を飲むと言う事に随分抵抗を感じました。今まで大小便は体の排泄物で、一番汚い物と意味付けられてきたからです。

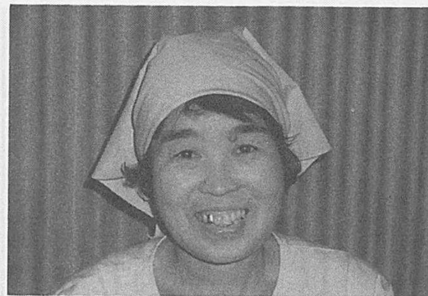
でも婦長さんから、尿ほどきれいな物はない、しかも万病に効くと言われ飲んでみようかなと思うようになりました。

自分もいつまでも若く元気でいたいという気持ちもありましたので、勇気を出してある日、一口飲んでみましたが、何とも言えない味でした。でも鼻を摘まんで息をせず、一口ぐっと飲みこみました。

二日、三日と続けて飲んでいると、もう苦になりません。そのまま飲めるようになりました。

そして、二カ月頃自分でもおどろきました。爪の反りがなおり、割めがなくなって、ピンク色になってきました。本当に奇跡です。

しかも、私には十年来の悩みがありました。それは腸の癒着です。春、秋、体が疲れてくるときまって腹痛がおきるのです。それも知らないまに治っていました。



私には、緊張したりすると手足の震える病気がありました。院長に診てもらったら、それはパーキンソン病だ、と言われ悩んでおりました。これもここ数年間苦しんでいた五十肩と共に、何時の間にか快方に向かい、今では全然それ等で何等悩んだ事はありません。

尿を飲むという事は勇気がいります。でも今は健康で仕事ができる事が幸せです。

1・7　更年期障害のひどい頭痛と嘔吐に悩まされたが

主婦　村越　幸子　47才

私は、一年ほど前より、ひどい頭痛と嘔吐という、更年期症状に悩まされていました。肩こりもひどく、憂うつな毎日でした。

総合病院にも行き、何度も検査を受けましたが、何時も「異状なし」との事、仕事も持っており、勤めの間も辛い時もありました。ところがそんな折、長男がケガの為、佐野外科医院に入院した際、尿療法の事をお聞きし、勇気を持って取り組もうと決心したのです。一日二回、朝夕と飲む様にしました。

最初は、朝一番の尿の、あの生っぽい臭いがたまらなく鼻をつき、何度嘔吐を覚えたか知れません。続けなければと自分に言い聞かせ、休み休みしながらも、半年余りが過ぎた今、いつしか肩こりがなくなり、あれほど苦しかった頭痛も、ほとんど忘れるほどとなり、仕事にも張りが出、自分でもおどろくほどのパワーが持てる様になったのです。

そしてもっとおどろいた事に、小さい頃よりのアレルギーによる湿疹もなくなり、気付かない内にも、あれほどの冷え症だった私が、冬の長い間、絶対に忘れた事のなかった、電気毛布も使わずに過ごせた事です。
目標としていた病気以外に小さな事が、よい方向へと向い、今では主人にも勧め、二人で感想をのべ合いながらの毎日です。
あれほど辛い更年期障害の症状もほとんどなくなり、何となく若返った気がいたします。
これも尿療法のお陰と感謝しながらも、これからの人生を夫婦共々もっともっと充実して生きて行きたいと気張って居ります。

1・8 脳梗塞のつらさが一枚一枚はがれるように

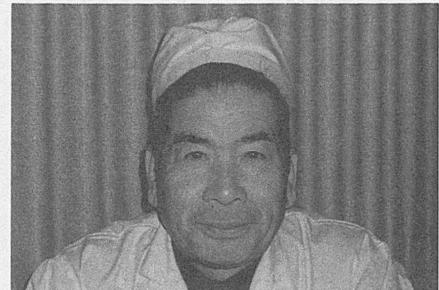
調理師　佐野　義光　62才

私は六十才になるまで健康には自信があり、労働力にはなんの惜気無く自分の体を使い、疲れる事も知らず働き、これも健康が故の事で幸せでした。このような健康の体にも、去年の一月病魔が襲ってきたのです。
睡眠中突然の鼻血、口中の出血がひどく、病院に運ばれましたが、高血圧の症状との事、自分の体が健康の時とは違い、頭が重くすっきりしない毎日が続き、病気ひとつとつした事のない私には大変な不安におちいり、あちらこちらとあせりながらの病院通いが始まりました。
そのような時、甲府市の佐野外科医院で診察をうけましたところ、なんと脳梗塞という事が分かりました。「尿を飲んでみろ」と院長先生から話がありましたが、抵抗があって、飲む気持ちにはなれませんでした。私は尿療法はよいと聞いてはいるが、絶対飲むものかと思いました。

そのように思っている時、「私が先に飲んでみるわ」といって、妻は尿をコップに入れ、私の前で飲みほしてしまいました。あっけにとられていましたが、このように妻も私の体の事を心配しているので、自分も飲んでみようと思い、夜中にそっと飲んでみました。

其の後、毎日朝晩飲んでいるうちに、なんの抵抗も感じず、体が軽くなるようになり、重く感じていた頭も一枚一枚はがれるように元気になって行く事に気がついてきました。

今では起床後すぐ一杯飲む事が日課であり、元気が出る泉であるように思えます。去年一月、病院をさまよい歩いていた頃、もっと早く尿療法をすればよかったと思います。



今では尿療法のおかげで元気になり、健康の有難さを感謝しながら働いております。尿は私のように病気になってから飲む事も大切ですが、元気の人でも、健康のうちに元気で明るく生活できるのには、尿を飲む事が第一だと痛感して

いる今日この頃です。

私の病気が回復した事は尿療法であり、私のように病気で苦痛の毎日の日々を送っている人々に是非尿療法をおすすめし、尿療法で元気を取り戻して頂きたいと思います。

１・９　原因不明のストレスがとれ不眠症も治った

会社役員　吉野　瑞夫　56才

今からちょうど一年七カ月前のことです。ある日突然手足が痺れ、体が動かなくなり、心臓の動悸が激しく、そのまま昇天してしまうのではないかという状態になり、救急車で病院へ運ばれました。

心電図や血圧測定などの結果、別に異状なく医師の話ではストレスによるものではないかの事でした。

当時私は仕事面でいろいろおもしろくないことがあり、ストレスを感じていました。友人である佐野先生に相談したところ、尿療法をすすめられました。尿を飲むことには抵抗がありましたが、清水の舞台から飛び降りたつもりで最初はオチョコ一杯飲みました。

それは海水のようにしょっぱくにがいものでありました。しかし健康の為と思えばなんでもありません。今では毎日一番搾りの中間尿をコップ一杯（１８

０cc）飲んでいます。

尿の出の良い時は体調がよくマイルドであり、悪い時は海水のようにしょっぱいものです。最近では尿の味によってその日の健康状態がチェックできるようになりました。友人達と楽しく遊んでいる時はミネラルウォーターのようにおいしく、会社で嫌なことがあった時は実にしょっぱいものです。

尿療法も私の日課となり徐々に効果が現れてきております。その結果とは、

①体重が５キロ減りました。

尿療法を始めたとき73キロだった体重が食事療法なしで68キロになりました。62キロを目標に頑張っています。身長は１６５センチです。

②酒量が減った。

私は今までアルコール依存型であり、酒量も多く（ビール二本酒三合）だらだら飲んでいたが、今では休肝日も月十日以上あり、時間もルーズでなく酒量も減りました。（ビール一本酒一合）

③睡眠がとれるようになった。

今までの私は午後十一時頃床につき、翌朝五時頃の間にトイレに三回～四回

いき、殆ど寝ていない状態であったが、近頃は睡眠がとれるようになり一回～二回に減った。

④脚に毛が少しはえてきた。

私は女性のように脚に毛がはえていなかったが、尿療法により少し毛がはえてきた。

高齢化社会になった今では、それぞれが自分で自分の健康を管理せねばならず、私は尿療法こそがお金のかからぬ予防医療と信じています。そして人生八〇年を目標に、尿療法によっていつまでも若々しく健康管理していきたいと思います。

尿療法をすすめてくれた友人、佐野鎌太郎院長に心から感謝いたします。

1・10　花粉症と冷え症がいつの間にか消えていた

中華料理店店主　石川　大　55才

私と尿療法の出会いは、父の法事で田舎に集まった時からです。従兄の佐野鎌太郎先生から、尿療法で毛髪が黒くなった事、体重が減った事など種々と話を聞き、私も早速始めました。

疲れるとすぐに胃にくる方で、漢方薬を飲んでいましたが、尿を飲むようになってから不思議とよくなり、又舌に白く苔が生えた様になり、尿でうがいするとピンク色に良くなった。

私の場合は幾つかの症状が良くなっているのに気が付きました。

毎朝コップ一杯で、

●花粉症が良くなった。（飲んだ残りを目につける）

●肩こりが全然無くなった。（以前は中国針と、マッサージに行っていた）

●皮下脂肪が取れた。（着れなくなった洋服が再び着れる）

●足の筋のつれるのが取れた。
●冷え症が治った。
●血色が良くなった。
●コレステロールが下がった。

本当にこれ程尿が利くとは思いませんでした。私も平成元年10月3日から始めていますが、コップ一杯の尿でその日の体調がわかり、疲れている時はすごくにがかったり、塩辛かったりするので、健康状態のバロメーターともなります。

1・11　右手首のけんしょう炎がウソのように消えた

大久保　保男　64才

私は昨年6月頃、突然右手首が痛み出し、ペンを握って字を書く事も出来ない状態になりました。数日で治ると思い、そのままにしていましたが一向に治らなく、痛みが増すばかりです。

私は今まで病気らしい病気をした事がなく、医者も嫌いだったのですが、仕方なく区内の整形外科病院に行き受診した処、レントゲンにも異状なく、これは手首の使い過ぎだから、暫く使わない様にと、右手の使用が出来ない様にし、一カ月様子をみましたが、良くなる傾向は更になく、他人のすすめで接骨院へ電気マッサージを受けに一カ月通院しましたが、一向にはかばかしくなく、偶然友人に通院の帰りにお会いして尿療法の話を聞き、早速紹介された本を購入して読みました。

8月2日の朝から朝一番の尿療法を始めました。最初はなかなか飲みにくか

ったのですが、薬と思って、毎日飲み続ける事二週間過ぎた頃、あれ程痛かった右手首の痛みが消え、嘘の様に自由に動き、元の手首に戻ったのです。
又この尿療法を続けていると、内蔵の各器官が具合良く、食事がおいしく、夜の一杯もとてもうまくなりました。
本当に有難うございました。知人にもすすめると共に、私も末長く続けるつもりです。

1・12　突然眼の前にシャボン玉がフワリフワリ

主婦　斎藤　幸子　59才

昭和56年の忙しい年の暮の事です。突然眼の前にシャボン玉が、ふわりふわりと飛び廻りビックリ、その状態がかなりの期間続き、不安な毎日でした。
其の内、シャボン玉が消え、今度は眼を閉じると、黒い斑点が二、三個見えだし、これは大変だと眼科医へ急ぎ、長い間待たされ、飲み薬と目薬の生活が続き、もう年だから仕方が無いとの事、夜は夜で眼の左の方から、ピカピカと光る、本当に嫌になる毎日でした。
子供達に尿療法をすすめられましたが、そんな事とても私には無理。でも或る日、眼がこれ以上悪くなったら、と思うと恐ろしくなる自分、誰にも言わずこっそりと実行する事を自分で決めた。それは平成2年5月28日だった。
今では、その斑点も消え、夜のピカピカ光るのもなくなり、今、本当にホッとしています。自分の尿とはいえ、中々の思い切りが必要であったが、又便

秘も治り今は快調な毎日を過ごしております。

１・13　右手首にとび出していた軟骨が無くなった

主婦　臼井美恵子　30才

私は飲み始めて、約一年になりました。始めは次男のおねしょ（夜尿症）を治したくて、次男と一緒に飲んだのでした。次男の夜尿症は治癒しましたが、今私は私の右手首に軟骨が出ていましたが、それも何時の間にか無くなり、痛みも消えています。疲れると腰のあたりが痛くなっていたのも、何時しか忘れてしまいました。

又右の顎の骨が触ると痛かったのですが、それも消えてなくなりました。胃の辺りが痛くて、レントゲン検査も受けて、胃潰瘍と診断されましたが、尿を飲み続けているうちに、今ではカレーライス、キムチ、胡椒の利いた物迄食べられる様になりました。薬も余り飲まずに済む様になり、とても快適に毎日を過ごしています。

テレビで見ても飲む勇気の出ない人は、海水の温かいのを飲むつもりで飲む

と良いと思います。あとは匂いですが、自分の尿の匂いですから、病気の事を考えれば、我慢出来ると思います。

一度飲む事が出来れば、あとは簡単です。私は毎日飲まないと、(飲めない日があると)「勿体ないなあ」と思います。

皆様も、こんな風に思える様になれると思います。

1・14 自殺すら考えたひどい円形脱毛症であったが

塾講師　相沢　裕子　26才

「自分の尿を飲んでごらん」。はじめて佐野外科にお世話になり、院長先生にこう言われた時、正直言って「なぜこんな所に来てしまったのだろう」と後悔しました。尿は汚いもの、という感覚がありましたし、何といってもそんなものを〝飲む〟などとは考えられなかったのです。

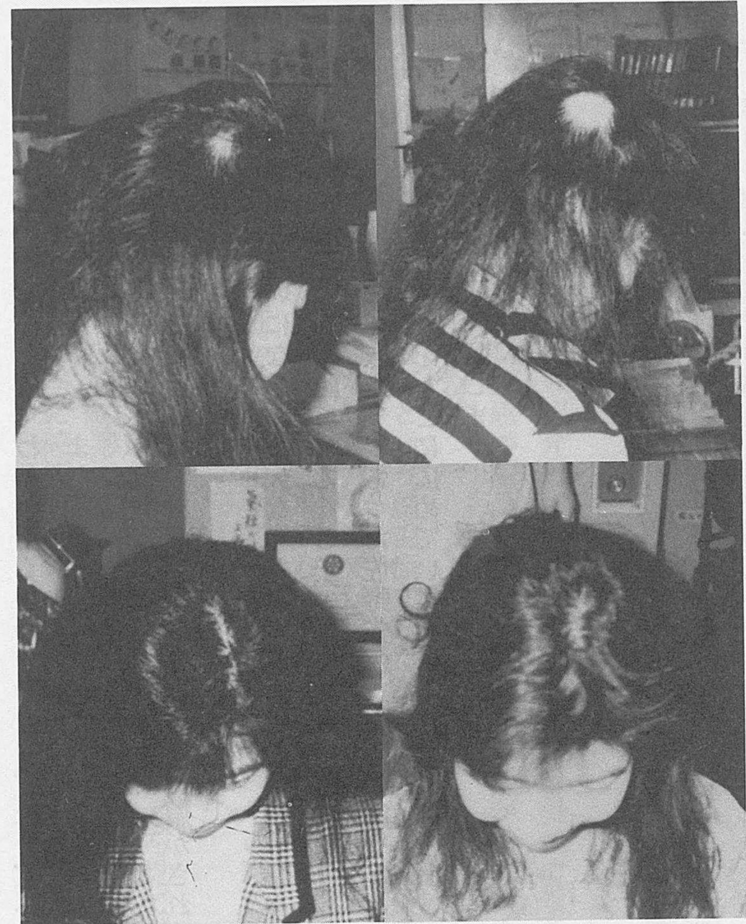
しかし、その尿がどこの病院でも味わえなかった満足感、幸福感を私に与えてくれたのですから驚いてしまいます。

二月の終わり頃から髪の毛が抜けはじめ、円形脱毛症になってしまった私は、家から出たくない、会社にも行きたくない、そう思いながらできるだけ頭をかくし、人にさとられないように注意を払ってきました。

もちろん脱毛部分をかくせるうちになんとかなるのでは、という期待もあり、いいと言われる病院やマッサージにまで通ったのですが、抜け毛はおさまら

ず、ひどくなる一方でした。
あの頃は人のちょっとした言動にも敏感になり、いつもピリピリしていたように思います。人前に出たくない、それだけを考えていた、辛く長い毎日でした。
そんな時に会社の上司から紹介していただいたのが佐野外科でした。尿を飲む、という事に対する抵抗感が院長先生のお話しをうかがっているうちに薄れていくのが不思議でした。
父の死のショックが原因だという脱毛症でしたが、その父が院長先生にめぐりあわせてくれたのではないか、と今では思っています。
あれほど悩んでいた抜け毛も、尿を飲むようになってから全くなくなりましたし、一週間ほどで細かい毛が生えてきたのですから、その時の喜びはもう口では言い表せません
週に一度の通院でしたが、その度にのびていく私の髪の毛を見て、院長先生や他の皆様が、まるで自分の事のように喜んで下さるので、毎日が楽しみになったくらいでした。本当に感謝しています。ありがとうございました。

円形脱毛症だったなどと全くわからなくなった今でも、尿を飲み続けていますが、最近では疲れにくく、また顔色がよくなったといわれるようになり喜んでいます。風邪もひきにくくなりましたし、のどを使う仕事をしているのですが、声がかすれることもなくなり、尿のききめには驚かされるばかりです。
また、血液がきれいになり、丈夫な赤ちゃんが産めるという話も聞きました。未婚の私ですが、いつか産まれてくる子のためにも、尿を飲み続けようと思っています。尿療法を教えて下さった佐野先生、本当にありがとうございました。　私自身も体験をもとに広めていきたいと思っておりますので、今後もアドバイスをお願い致します。



１・15　激務に耐える気力と体力を確保できた

ゲーム店店長　佐藤　学　32才

「え？　本当におしっこが飲めるんですか」

約一年位前の事です。職場で、社長夫人から尿療法なる物を聞いた時の実感でした。

いろんな話をお聞きする内に、自分でもやれそうだ、と思いましたが、自分は特に悪い所はありませんでしたので、その時は只お話しを聞くだけに留めたのですが、自分の事を考えた時、約一ヵ月後に新店が出来、自分が新店の店長として赴任する事が決まっておりました。

そうなれば公私共に忙しくなり、体力、気力が持つだろうか、又病気は？等々考えました時、それらの予防として始めて見ようと思い立ち、ある日突然紙コップ一杯の尿を飲んでみました。

塩辛い！　海の水を飲んだ時のような辛さでした。二日目、三日目、と飲む

内に、しょっぱさも薄れ、飲み易くなってきたと同時に、身体が軽く感じられる様になって来ました。その内に、塩辛さで、その日の体調が判るようになってきましたので、それにより自分なりに、身体のコントロールを計る事が出来る様になってまいりました。最近では風邪ひとつひかず、元気な毎日をすごしております。他の人また従業員にも事有るごとに「尿療法がいいぞ」とすすめる様になりました。

1・16　5年間も耐え忍んできたリウマチの激痛から解放

無職　佐藤　哲也　67才

①主病リウマチについて

昨年中は私にとって、5年間も耐え忍んできたリウマチから解放され、種々ご指導頂き感謝至極、改めて御礼申し上げます。先生から毎日継続せよ、とのご指導なので、現在も自然の妙薬と信じ、何の抵抗もなく実行中でありますが、主病治療中、外の悪い所もいつの間にか良くなっているのに気が付きましたので御報告致します。

②風邪について

私は例年、年に4・5回は風邪をひいて、医師の治療を受けていたのですが、尿療法を始めた63年12月より現在まで、一回も風邪をひかなくなった事に気が付きました。

③前立腺肥大について

昨年3月末、脳血栓にて入院した際、医師より前立腺肥大の宣告を受けて、後日専門医の治療を受けるようにとの事でしたが、最近何時の間にか治っているのに気が付きました。

以前は夜中2、3回の頻尿があり、夜もろくに眠れずにいたのが、現在は一回の排尿もなく朝までぐっすり眠れます。

④白内障について

昨年3月4日、白内障を宣告されたのですが、私は尿療法でこれを治してくれる筈と信じていたところ、12月眼科医から白内障なしと言われ、私の予想通りでした。

⑤胆石について

昨年12月に前身の定期検診を受け、C・Tにて米粒大の胆石があると言われましたが、これも自然に溶けるものと考えています。

以上のほかは、あらゆる検査の結果、別に悪い所も見当たらず、極めて健康な老人でした。

昨年は私にとって、厄年とも言うべき悪年でしたが、考え方によっては、尿

療法という、新たな妙薬を知る事ができた年でもあり、今後もこの妙薬が万病を癒す力がある事を信じ続けたいと思いますので、何卒宜しくご指導をお願い申し上げます。

1・17 永年患った痔、肩こり、脱肛、腹痛より解放されて

会社員　秋野　秀雄　53才

私は病の問屋と言われる程、体のあちこちが悪く毎日大変でした。何十年と胃腸の調子が悪くて、腹の痛くない日は一日もありませんでした。
それに痔とは三十年来の付合で、肛門が全部出てしまい、どうしても入らないのです。歩くたびにすれて、出血がひどく、いよいよ手術をするつもりで病院をさがして居りました所、尿療法の話を聞き、早速朝晩コップ一杯ずつのみました。
それから一週間もたたない内にまず肩こりが無くなり、食事もおいしく毎日痛い痛いと言って居りました腹の痛みもいつからか無くなり、一番困っていた痔が、いつ入ったのかわからない間に入ってしまい、今では全く痛みも無くなり気にもなりません。
今では本当に自分の体かと信じられない程、元気で仕事に励んで居ります。

都合で一回でも尿を飲めない日があると不安になります。今まで悪いと思っていた所が段々と良くなって行く事を楽しみに、これからもずっとつづけて行きたいと思って居ります。

1・18　快方に向かい始めた私のベージェット病

主婦　川村　優子　39才

前略、先日はお忙しい中、相談に乗って頂き、本当に有難うございました。お陰様でこれからも続けるに当り、勇気が持てました。

一昨年、検査の結果ベージェット病と言われ、以来気が滅入る毎日でした。今から五年程前から、足と腕に虫刺され状のものがボタボタ出るようになり、一～二カ月に一度の割で繰り返しているうち、それが出る前後、風邪を引いたような全身のだるさ、発熱、節々の痛みを繰り返し、そして三年前、突然右目が見えなくなってから、三カ月～六カ月位の間隔で再発を繰り返し、現在に至っています。

テレビ等で、何度か尿療法を見たり、本を買い求め読んではいましたが、中々決心がつきませんでした。

昨年の九月六日、それ迄のためらいを捨て、治りたい一心で尿療法を始めま

した。

最初はコップの底にほんの一口取り、飲むのがやっとでしたが、一度飲み込むと、ヤッタ！という気分、それから少しずつ量を増やし、一日二回、コップ一杯ずつにしました。

一カ月後の十月、両足首から指先迄、見事に腫れ上がり、足もつけない状態になりました。まるで刃物でえぐり取られる様な痛みで、その二日後右腕の肘が痛く、左手をそえないと動かせないのです。

これが好転反応なのかと思いました。一週間程で日に日に快方に向かい、ホッとしていた矢先、右目が見えなくなりましたが、これも一カ月位で少しずつ快方に向かいました。そして十二月三一日今迄、さしたる病状の現れた事の無い左目がぼやけ始め、ショックは受けたものの、今は大分落ち着いています。現在は一日三～五回飲み、目にも目薬代りに使っています。

飲み始めて四カ月余り、おかげ様で熱が出る様な事もなくなり、手足に出ていたものも時々は出ますが、一日位で黒ずみ軽く済む様になりました。

それ以外にも若い時から不整脈があり、3年程前より病院から薬を貰って飲

んで居りましたが、最近はほとんど飲んでおりません。
今迄十年近く、丈夫になりたさに、人が良いと言われるものは何でも試みましたが、効果は期待とは程遠く、経済的負担のみが凄かったな、という感じがします。
尿を飲み始めて未だ四ヵ月、心身共に健康になったと思える迄には月日を要するとは思いますが、快方に向かって来ているのは実感。感謝の気持ちと同時に驚きです。
おこがましい言い方で失礼ですが、尿療法にひかれたのは、治りたい一心もさる事ながら、現職のお医者さんが広めていらっしゃる事と、健康の為にと言って人に何かをすすめる時、必ずそこに利益というものがからんで当然なのに、この尿療法にはそれが無い、にもかかわらず、貴重な時間を割いてまで、この療法を広めようとなさるのは、病気で苦しんでいる多くの人達を救ってあげたい、という思いやりの心ではないかしら。そう思えてならなかったからです。だからこそ本物なのだと確信せざるを得ません。生意気な事を書きました、申し訳ありません。

私の周囲にも、沢山の病気を抱え込んで苦しんでいる方が沢山居ります。自分の体験を通して、身近な人達から輪を広められたらと、念じずにはいられません。本当に有難うございました。近い将来、お陰様で元気になりました、と報告出来る事を楽しみにして頑張ります。佐野先生の御活躍をお祈り致します。

1・19　アルコール依存症の酒乱、幻覚、幻聴がどこかへ

看護婦　矢崎　憩子　43才

私の家は、山梨県内でも有名な菓子製造業で、遠く他県からも、お菓子を求めて買いに来られ、創設者である義父は、山梨県から現代の名工として表彰された程です。

看護婦でありながら、この家に嫁いで来た私は、自分の職業を放棄して、義父と朝早くからお菓子作りに明け暮れる毎日でした。

一人息子の夫は、両親の溺愛下に育ち、我がままとなり、田舎の近所付合いも多く、自然と日の高いうちからお酒を飲む機会が増えていったのです。

この様な事から十二指腸潰瘍を患い、当時東京から過疎診療に燃えて、古墳の町中道町で胃腸外科を創設した佐野先生が、胃腸の手術がすぐれているとの評判を頼りにお尋ねして、手術をして頂きました。

それ以来、佐野先生との交流が始まり、病院が忙しい時は家業の合間を縫っ

て、看護婦として病院のお手伝いに行き、夫のご恩の一部をも果たそうと致しました。

家業も忙しくなるにつれ、病院のお手伝いも出来なくなり、約10年許り経た頃、夫のアルコール依存症は益々その度合いを深め、朝から酒に入り浸る様になりました。

私や家族の説得などは、焼き石に水の様な状態になってしまい。暴力沙汰にも及び、ついには幻覚、幻聴、手足の震え、食欲不振となり、一日中寝ては、自分の必要なものは枕元に置き、酒だけを飲み、一向に働こうとしない状態になり果てました。

両親と相談の結果、精神病院に入院させる覚悟で、平素家族ぐるみでお付合いさせて頂いている、佐野先生に相談を持ちかけたのです。

自分の手術した患者は、一生のお付合いである、と言う佐野先生は、君の家の様な有名な店をやっている息子が、精神病院に入ると言う事は、家名にも傷がつく事だ。僕が出来るだけ手を尽くしてみよう、それで駄目なら精神病院に入れる事もやむを得ないね、と言ってくれ、佐野外科へ入院させて頂く

ことになりました。
忘れもしません。平成2年8月のことでした。入院するや病院中を訪問して歩き、大声でわめき、入院患者の若い女性に抱きつくなどして、様々の幻聴、幻覚を訴え、（例えば自分をののしる声がするとか、テレビのうしろに蛇が居るとか）やはり精神科へ入院させねば駄目か、と思っている矢先、先生の診療室の前を通った夫は、診察机の上にある大ジョッキに入っていた先生の尿を見て、生ビールと間違え、先生にそれを所望したのです。
院長は「どうだい、その生ビールはうまいかい」と尋ねた処、夫は「いやーこれはうまい、最高だ、明日も一杯ごちそうして下さい」「よし、明日又一杯おごってやろう」。
この様にして3日を経過した後、急激に夫に変化が現れたのです。今迄物にとりつかれた様な、血迷ったうつろな目が治り、手足の震えが止まり、幻聴、幻覚を訴えなくなったのです。
これには流石の院長先生も驚きのようでした。それでも本人には尿であると言う事を告げずに、一週間院長先生の尿を所望しては飲ました結果、全く正

常な状態に戻った時、院長先生が初めて「おい矢崎君、それは生ビールではなくて、俺の小便なんだよ」
夫は大変に驚いて、「えっ！　院長小便がのめるんですか？」、院長先生は応えて「小便は万能の薬だよ、俺は毎日そのジョッキで小便を飲んでいるんだ」、と申しますと、命の恩人と信じている夫は、それ以後毎日自分のオシッコを飲む様になりました。
酒乱はかなりのスピードで改善してゆき、入院2週間で退院の運びとなりました。退院後は酒量も減り、仕事に精を出す様になりました。
尿の威力にただ驚くばかりでなく、この尿療法によりアルコール依存症に悩む、本人や家族のかたがたが、一人でも多く助かる事を念願しております。

1・20　心筋梗塞による心臓の筋肉の障害がなくなった

主婦　朝田　裕子　49才

私は六年前心筋梗塞で倒れ二カ月入院、それ以来一週間に一回通院して点滴を続けておりましたが、肩こりがひどく、エレキバンの相場が変る程、首から肩背中にかけて貼りつづけておりました。

それにちょっと神経を使ったり、急で何かやれば心臓がドキドキして気分の悪い毎日でした。

ある日私の体の調子を良く知っておられる人から、尿療法の話を聞かせていただきましたが、最初はなかなか思い切れず、いささかコップに汲んでは決意が出来ず捨てておりましたが、身近な人で早くから飲んでおられる人が、あまりにも体の調子が良いと言っておられますので、私も思い切って一口、手の中に汲んで飲んでみましたところ、思っていた程飲みにくい物ではありませんでした。

それから毎日少しずつ量を増やしながら飲みつづけて、心電図を取ってもらいました。それを見てお医者さんが心臓の筋肉の障害がなくなっていると言われました。気がついてみればエレキバンもいつからか貼るのを忘れておりましたし、心臓のドキドキもおさまっておりました。

それからは親戚はじめ身近な人で体の悪い人にも話して、今では皆さんが喜んで効果を話し合いながら、楽しく仕事に励んでおります。

本当にありがとうございました。

1・21　業病リウマチも望みなきに非ず

主婦　高橋　敏恵　53才

初めてお便りさせて頂きます。横浜の石川大様より佐野先生の尿療法のお話しを伺った者です。

私が10年以上重いリウマチに悩まされておりますので、御親切に尿療法についてお聞かせ下さいました。始めましてから三カ月以上続きましたので、報告をさせて頂きます。

一、初挑戦。苦味、塩辛いのに驚く。
濁り、悪臭が強い。大変飲みにくく気持ちが悪い。二週間続けるも変化無し。害はないが所詮排出物だもの……。効く訳ないしと止めてしまう。

二、石川様の熱意と御親切により再度挑戦。飲み薬を全部止める。外出、来客時座薬使用。

変化　①あんなに飲みにくかったのが平気になる。
　　　②何と言っても、薬を飲まなくても、平気でいられる。

三、匂いがなくなる。
四、濁りなし、透明な黄色。薄い色の時は特に飲み易い。
五、苦味なし。
六、塩分は時による。前日の食べ物の所以かと気にならぬ。
七、顔色が良くなったと言われ、食欲が出て体重が増える。
八、便秘で兎糞型の便が正常になる。
九、体力回復。自然治癒力増進が出来る。

リュウマチそのものは未だ変化はなく、変形、痛み、指の不自由さは相変わらずであるが、業病である上、長く患っているので、尿療法が直ぐ効果あるとは思えないが、望みなきに非ずと信じ続けています。

1・22　全身にできた赤い斑点がみるみる消えていった

会社員　百武　正義　37才

僕は昨年、一年間余り声の出ない原因不明の病気に悩まされました。というのは、一年半程前の二月頃から、口の中に赤い斑点の様なものが出来、始めは口内炎かな？と思い、薬局で薬を買い、飲んだり、塗ったりしていました。

その内に、手の平、足の裏、背中、顔全体と赤いブツブツが出て来て、痛みもかゆみもなく気になるので、皮膚科の病院へ行き、二～三カ月毎日注射と薬の治療の通院しても、なかなか治らず、内臓からきているかもしれないと思い、内科にも通院し、それでも治らず、その内声まで出なくなってしまいました。

それで今度は耳鼻科へ転医し、3カ所医者を転々と変えても、症状は変化なしの状態で、自分で不安になってきて、もう治らない病気にかかってしまったのでは、と自分勝手に思い悩んでいた所、会社の専務から尿療法の話を聞き、すぐその場で先ずコーヒーカップ半分位飲んでみました。

僕はサービス業の仕事をしている関係上、声が出ないという事は致命的であり、このまま治らなかったらどうしよう、と思っていました。

絶対に治してやろう、と思っていたので、話を聞いた時も何の抵抗もなく飲めました。

味はぬるま湯に食塩を少々入れた位で、匂いはなく割合に飲み易く感じました。一週間、二週間と続けてゆくうち、顔の斑点がだんだんうすく消えて行く事がわかり、続けているうち、一カ月余りで手も足も背中も顔も、全部消えてゆきました。

声の方も少しずつ出る様になり、今は以前と同じ様に出る様になりました。病院に9～10カ月通院して治らなかった症状が、尿療法で1～1カ月半で完治し、その上治療費もいらない、この上ない治療法だと思います。

今はこの療法を教えてくれた、会社の専務にはとても感謝しております。疲労回復にもとても効果があると思います。自分で飲んで見て初めてわかりました。

日本全国、様々な人が僕以上に何かの病気で苦しんだり、悩んだりしている

と思います。そんな人達にぜひ尿療法を実行して頂きたいと願望致します。

1・23　股のタムシが治り白髪の4分の1が黒くなる

会社員　石田　徹　58才

先日は遠方よりの御親切なお電話、誠にありがとうございました。

実は母は先の6月10日に急逝いたしました。全快ということで退院の日の早朝であっただけに、驚く以外ありませんでした。何よりも残念で腹立たしい程に思えるのは、全く尿療法をやらなかった事です。

先生からお電話を頂いてから、3週間はありました。どんなに説得しても、只怒るだけで、全然聞き入れて貰えず、その都度情けない気分でおりました。私はつくづく、病気は自分の知恵で自分を計り、冷静な気持ちで勇気をもって挑んでゆくものだと痛感しました。

私は６００cc～１０００cc、毎日飲んでいますが、結局10人程の人達にすすめましたが、今日迄一人も実践する人はいませんでした。

現在私は大病とかいうものはなくても、何ら疑う事はなく週刊誌の一声で、

その朝から飲んだのですが、母も含め他の人の臆病さが不思議でなりません。
現在私には、時折りの下痢以外、好転反応の発疹というものもなく、血色はすこぶる良く、20年来悩んでいた、股の500円玉程のタムシが完治した事、白髪の4分の1程に黒みがかかった事等の変化が起きています。
先ずは、2～3年の継続で始めて大きな変化差があらわれるものと期待しております。

1・24　300もあった血糖値が今では110に

自治会役員・保護士　貫井　英雄　73才

尿療法についての講習会が、平成元年11月26日に甲府市社教センターに於いて開かれました。私の主治医でございます、佐野先生より是非行って聞く様に言われました。
今迄そんな方法があるのかと、真偽の程すら疑ったのでしたが、信頼申し上げています佐野先生のお言葉なので、喜んで出席致しました。
諸先生方の講演、並に実践者の方々の体験発表等をお聞きするに、これは良法であると感銘を受けました。多くの人々が実行していて、良い結果が出ているならば、私にもできることと思い、やってみようと心に決めました。
いざ実行に移すというと、なかなか抵抗がありました。そして必要以上に決断に苦しみました。然し自分の体について、これによって救われるかも知れないと、意を決して飲む決意をしました。

28日の夜、風呂に入り、紙コップへ20cc位をいれて水で3倍薄め、目をつむって飲みました。飲んでみると案外今迄の抵抗がなく、嘘の様に感じられました。一度実行に移すと、後は何らの抵抗もなく、違和感もありませんでした。只今は、毎日コップに一杯半を一日二度にわたって飲んでいます。

さて、私は今まで痛風に又糖尿病に狭心症にと、幾つかの病気に悩まされておりましたが、尿療法を実行して以来、順次快方に向かい、現在は先生よりお褒めの言葉をいただくほど、健康になっております。

当時、血糖値が３００、コレステロールは２５０、血圧は２１５～１０５等、どれを取っても良いところはありませんでした。

それは現在は、血糖値が１１０、コレステロール１４４、そして血圧が１４０～７０位を保ち、また痛風は既に治癒しております。

こうしてみますと、私の体は尿療法によって、他の病気の入り込むすきがないのではと、唯々感謝の念で



いっぱいです。

尿療法が如何に良いか、私自身の体験から多くの方々に実行していただく様お薦めします。

世の中には多くの名医の方々がおいでになりますが、尿療法によって多くの方が救われる事を、声を大にして重ねてお薦め致します。

1・25　白内障が快方、眼鏡なしで新聞が読める

蛭川　文江　77才

私は二十数年来、心筋梗塞、心不全、狭心症等の心臓病を患い、入院退院の繰り返しでした。その他の病気で手術を三回ほど、足と言えば変形性関節リウマチで歩行困難、数え上げればきりが無く、病気という病気をやって参りました。

平成元年一月五日には不整脈の為、二年一月には門松がとれたら人工弁を入れる手術をしましょうと先生に言われていました。

私が尿療法を始めたのは、平成元年十一月からです。一月の検査の結果が良くなっているから、手術をしなくても良いとの事、二カ月位で不整脈が良くなっているのには驚きました。これは尿が利いているのだなと確信しました。

私が尿療法を始めたきっかけは、娘婿が始めて一カ月位してから、冷え性が治った事です。私も冷え性で、靴下を二枚はいて寝ていました。飲む迄は決心

がつきかねましたが、飲んでみると、あまり違和感がなく飲めました。最初のころは出るもの全部飲んでいましたが、今は朝昼夜と三回飲んでいます。（体重も6kg減りました）

尿を飲む前は、尿の出が悪く、病院からお薬を頂いて飲んでも、一日コップ一杯位しか出ず赤い尿でしたが、飲尿を始めてからは尿の出も良くなり、一回でコップ一杯以上も出る様になりました。

足の冷え性も治り、又白内障で目も悪く、一番強い眼鏡をかけても、新聞の字がぼやけていたのが、尿を目につけるようになってから、眼鏡もかけずに新聞の字が見える様になったのは不思議でした。

口内炎の苦しみもとれ、家の中でも杖なしでは歩けなかったのが、今では近くの店まで杖なしで買い物に行ける様になりました。薄紙をはがすようにいくつかの病気が治っています。

病院で知り合った数人の人が、私が余りにも丈夫になったので、どうしたのかと聞くものですから、尿療法の事を教えてあげたら、その方達もさっそく始め、一人の方は三日位で良くなった、と感謝の電話を頂いています。

私は尿療法を始める前は、一カ月に二度位ニトロの舌下錠を使っていましたが、今では病院の薬は一切飲んでいません。
尿療法を始めて一年五カ月が経ちましたが、元気な毎日を過ごしております。
これも尿療法のお陰だと感謝しています。

1・26　15年間苦しんだ慢性湿疹が治った

会社員　臼井　年光　42才

去年の夏、7月頃だったと思いますが、有楽の新美さんが見えて、私の父が病気で入院しているので、尿を飲ませたら、と教えて下さいました。
最初のうちは、変なことを言っているなと思いましたが、二度、三度と話を聞いているうちに、本当に私達を心配して下さるんだと思い、母にも話しましたが、結局父親は飲ませ得る状態ではなかったので、飲ます事ができず、昨年10月亡くなりました。
或る日、母と妹と話している時に、伯父さんが来て、尿療法の話をしたら笑っていましたが、「私が飲んだら飲むか」と言ったら「飲む」と答えたのでその時から飲尿が始まりました。
丁度その日私は、腰が少し痛かったのですが、飲んで2時間程したら、軽くなって楽になってきました。それを3人に話したら、皆笑いましたが、その後

妹が飲んで、夕方になったら肩がすごく楽になった、と言って私の所へ報告に来ました。
私は腰が弱く、年に2～3回程整形外科に通いましたが、今は凄く調子が良いですし、以前はお酒を飲み過ぎると、翌朝は何時も起きれませんでしたが、現在は朝早起きができます。体力的にも強くなったと思います。
また、ふと思い出しましたが、後頭部がよく痛くなりましたが、それも今ではありません。15年程通院していた慢性湿疹も無くなりました。
人間と言う生き物は、良くなると悪かった頃を忘れ、当たり前の様になりますが、初心を忘れずに続けていきたいと思います。

1・27 成人病とアレルギー性鼻炎が完治

音楽大学教授　花村　光浩　55才

平成2年3月7日より尿療法をはじめて早一年余り、今では家内共々、私は快適な毎日を過ごして居ります。
この療法に関しては、小学校当時より45年間の友人である、佐野外科医院長である彼より4年前よりすすめられて居た。しかし私としてはその療法にはかなりの抵抗があり、私の種々の成人病も、彼の忠告と投薬によって、ほぼ健康状態が保たれて居たので、その必要は感じられなかった。
それは禁煙と薬とによる狭心症の治療、コレステロール、中性脂肪、痛風、肝機能に対する食事の注意と投薬等………。
しかし昨年3月5日に突然家内が膝の激痛を訴え、近所の病院の診断の結果、リュウマチとの事であった。その苦しみの様を見て、佐野院長に電話で相談したところ、以前より治療を受けて居た自律神経失調による心臓障害及びリュウ

マチにも、この尿療法は効果があるとの事、この際に私も始めようと決心し、家内にも強制的に実行させる事にした。

家内の膝の痛みは数日で柔らぎ、ほっとしたのもつかの間、一週間程後に再び痛みが戻り、院長に相談したところ、これが好転反応との事で続けて実行する様にとの事でした。

その後は全く痛みも治まり、加えて心臓発作もなく、さらに便秘、大変な冷え性、また毎年11月頃から始まる手足等の「からすうり」の様になる霜焼けも、この冬は全くなく、子供時代からの冬の季節の苦しみから開放され、毎日快適な生活を送る事ができたとの事です。

一方私は、今では全く薬を使用せず、前記の成人病は完治して居り、特に血圧の安定は（24才時にくも膜下出血を煩っているので）毎日が気分壮快であり、また治療を締めて居た仕事の関係（創作活動）等から来る肩こり、偏頭痛、年間通じてのアレルギー性鼻炎（大学ではハンカチで鼻をかむ先生として有名である）季節的におこる花粉症も、昨年より全くおこる事がなく、今では二日酔い、水虫にも全て尿療法によって解決して居り、願わくば、多少薄くなってき

た頭の中心部に効果が現れればと念じつつ、鏡を見る毎日である。

1・28　あれほどひどかった喘息と鼻炎から脱却

調理士　佐野　春江　58才

十九才で学校を卒業し、卒業と同時に母の知人の奥さんが子宮癌で入院しました。ご主人は出張中で、看護婦がいないので、どうしても付添いをしてくださいという事で、若い私はその奥さんの看護する事になりました。四十年位前の事でした。

昔は子宮癌という病気は異様な匂いがしたと人はいいますが、そのとおりで病室中匂いがあふれ、私はその時、自分の体の変調に気付きましたが、退院するまでは看護してあげたいと頑張りましたが、その人は亡くなられました。

私は家に帰りましたが、その時から一、二回息を吐き出すのが非常に苦しい呼吸困難の発作がありました。医師から気管支喘息と診断されました。発作がないときには、まったく健康ですが、四季の変わり目には必ず発作がおきるようになり、十日間位は床に伏すようになり、ゼイゼイという特有の喘息と呼吸



困難がひどく、寝ていることもできず、座ってしまうこともあります。

十日位過ぎますと、透明のネバネバしたタンが出て発作が止まります。このような体になり、不安と恐怖で神経は興奮しましたが、この病気のでない時は鼻炎が代わって起こります。くしゃみ、鼻づまり、水ばな、頭が重い、体がだるい、薬を飲まなければ起きていることも大変の状態です。

体から薬を離すことができず、何時発作が起きるか分かりませんので、心配でした。あちらこちらと病院に行きましたが、全治することはできません。

このような時、家族が脳梗塞で入院しまして、私が看護する事になりました。その時、尿療法をして、患者さん達が元気になっていることをこの病院で知りました。病人の脳梗塞を治したい一心で自分から進んで尿を飲む事にしました。

何の抵抗もありませんでしたので、病人と一緒に飲むことにしました。毎日、朝晩飲んでいる間に、一週

間が過ぎ、病人の看護で自分の病気は忘れていたのです。それはそのはず、私は喘息も鼻炎も治っていたのです。

尿のおかげだわと自分で気付き、薬もいつの間にか体から離れていたのです。自分をためすことにして、二、三日尿を飲まないでいますと、今までのようなひどい鼻炎はありませんが、軽い鼻炎がおこります。

いろいろな薬を飲みましたが、その時ばかりで治りませんが、尿療法を実行しまして、体も軽くなり、今まで悩んでいました病名とも別れ、感謝で一杯でございます。今では二人とも元気になり、一生懸命に働いております。

1・29　足腰の神経痛がやわらいだ

主婦　金井里子　75才

私は75才の女性ですが、尿を飲んで3日位で、階段の上り下りができるようになりました。足の痛みです。腰は二週間位で痛みが全部とれ、今では正座も平気で出来ます。

それに爪が大変良く伸びる様になりました。足のあかぎれもなくなり、顔色もとても良くなりました。

今では何処も悪い所がありませんが、今自分で信じて試している事があります。それは眼です。白内障が今以上に進行しない様に、毎日尿で眼を洗っていますが、進行しない様な気がします。

1・30　快食、快眠、快便の三拍子揃って大ハシャギ

主婦　杉浦　マサ　50才

私は50才になる商店の主婦で、体は至って健康な方ではありますが、知人のすすめで昨年九月三日より、毎日欠かすことなく尿療法を続けて居ります。確かに、以前より疲れにくくなり、第一に「快食、快眠、快便」と三拍子揃う事が、とても喜ばしく壮快です。

それに肌も艶やかになり、冷え性も治り、少し若返った様に思える今日この頃です。

「産地直送の特効薬」「無料のドリンク」、これを教えてくれた方々に感謝しております。本当にありがとうございました。

尚、寝る前に果物を食べておくと、とても美味しいドリンクが飲めます。

1・31　足首の脂肪のかたまりが二カ月でとれた

主婦　加藤　よし　68才

私は血圧が日頃から高く、同時に血糖値も高いので、娘が尿療法の事をすすめてくれ、一年前から飲尿を実行しております。

以前は、月に3回位通っていた病院も、3月頃からは月に一度、それも尿と血液、血圧を定期検査を受けるために行っているだけで、現在は血圧も下がり、血糖値も下がって、検査データーもよくなっています。

又、前から足首に脂肪のかたまりがあったのですが、それも二カ月位でとれて、とても楽になっています。

私は一人暮らしですので、娘達に世話をかけない様に健康でいつまでもいるために、尿を飲んで長生きする様に頑張っています。

1・32　便秘と不眠症から解放された

会社員　山岸　章二　39才

私は最初知人に尿療法の事を聞いたときは、びっくりして余り信じられなかったのですが、その本を見て、訳のわからない薬を飲むよりは、それが万病に利くというならば、その方が余程安心と思い、飲尿に踏み切りました。飲み始めてからもう一年位になります。毎日、朝一番の尿を１００cc程度飲んでいます。

私は別に重い病気にかかって、困っているわけではありませんが、強いていえば、便秘と不眠症位でした。それも尿を飲む事によって、ほとんど治って居ります。

1・33　あれほど悩んでいた肩こりがなくなった

主婦　佐藤　愛子　65才

私は、朝の尿がとても勇気がなくて飲めません。それで夜お風呂に入ってから、最後の尿を飲みますが、自分で気がついた時には、あれ程悩んでいた肩こり、足の冷え、腰のだるさがなくなっているのに気付いて喜んでいます。

それ迄は月に2〜3回程度は必ず、マッサージに通っていましたが、それが全然といって良い程なくなっております。

第2章 ☆ ガンと知ってガンと戦う

2・1　ガンはどうして出来るか、そのメカニズムについて

佐野鎌太郎

　ガンは簡単にならないし、簡単に治らない。ガンについてある日突然正常細胞が変化してガン細胞になり、これが止めどなく増えて宿主である人間の命をも断ってしまうと一般の人は思っている。

　ところがガンの目が出来て、早期ガンという大豆大位の大きさのガンにまで成長するのに約20～30年はかかるのです。

　健康な核と細胞膜から出来ている正常細胞を1段階とすると、眠っているガン遺伝子を目覚めさせ、核にあるガン遺伝子の活動が始まっている細胞を2段階の細胞とする。

　この眠っているガン遺伝子を目覚めさせるものを発ガンイニシェーターと言い、それには化学物質（肝ガン、肺臓ガンを誘発する）、放射線（乳ガンを誘発する）、大量の紫外線（皮膚ガンを誘発する）、ビールス（子宮頸ガン、肝臓ガ

ンを誘発する)。

これらの発ガンイニシェーターと逆の作用をもつものにビタミンE、ビタミンCがある故に、我々の体がガンになる長い過程ではビタミンE、ビタミンCが大切なのである。

さて、更に細胞がガン化の一路を辿っていくに、核を取り巻いている細胞膜を変化させ、細胞分裂を促す物質が現れる。これらを発ガンプロモーターという。

発ガンプロモーターの中には、女性ホルモン→乳ガン。DDT・BHC・PCB→肝臓ガン・胆汁酸→大腸ガン。サッカリン→膀胱ガンのごとくである。

この発ガンプロモーターに対してビタミンA、及びカロチン等が抑制的に働き、細胞のガン化を遅らせ、前段階の細胞に引き戻す故にビタミンA、及びカロチン等はガンの予防に重要なビタミンといえるのです。

この辺の段階になると、細胞は4段階に入り、もはや宿主である人間の抵抗力、免疫力も低下し、一途に本格的なガン細胞(5段階)となり、後は生体は殆どがガン細胞、異形細胞で占められ、免疫細胞はごく少量となる。

4段階・5段階の細胞で、いつどこにガンの腫瘍が発生してもおかしくない退化病の最悪の状態となるのです。

これらの発ガンのメカニズムを良く理解することによって、現代医学で行われている手術、制ガン剤、放射線療法が疲労困憊した人間の体を更に疲労させ、体の各所にガンを誘発させ得るという事も理解いただけると思います。

ガンは斯様に慢性的に経過する最悪の、かつ全身的な退化病であるから、日頃より転ばぬ先の杖、ということわざの通り、ガンにならない自分を作る様に心掛ける事が大切です。

ガンにならない体質とは、ストレス・冷症・便秘症に対処し、無農薬に近い果物・緑黄野菜・無漂白の穀物(玄米等)を摂取し、自分の体の細胞が栄養のバランスがとれた状態にしておく事である。

不幸にしてガンになっても、早期発見・早期手術を行えば、１００%治癒する事はありますが、手術という事をきっかけに、患者さんは初めて自分の体に全神経を集中させる事によって、ガンにならない様な方向に努力する事が、ガンの再発を防いでいる大きな原因と思われます。

何らかの原因がなければ、現代の人々はストレスの社会にさらされ、西洋文化から来る西洋食（肉食・偏食・ナトリウム資質過剰）の食事を摂り、便秘・冷症を何とも思わない心理状態に陥って、細胞のガン化への一路に気がつかないうちに遭遇しているのです。

ここでいつ起こるか分からない細胞のガン化に、大きな歯止めを加えるのは、ストレスに強い精神力、バランスのとれた食事、昔からいわれている健康の3大バロメーターである快食・快眠・快便という事になります。

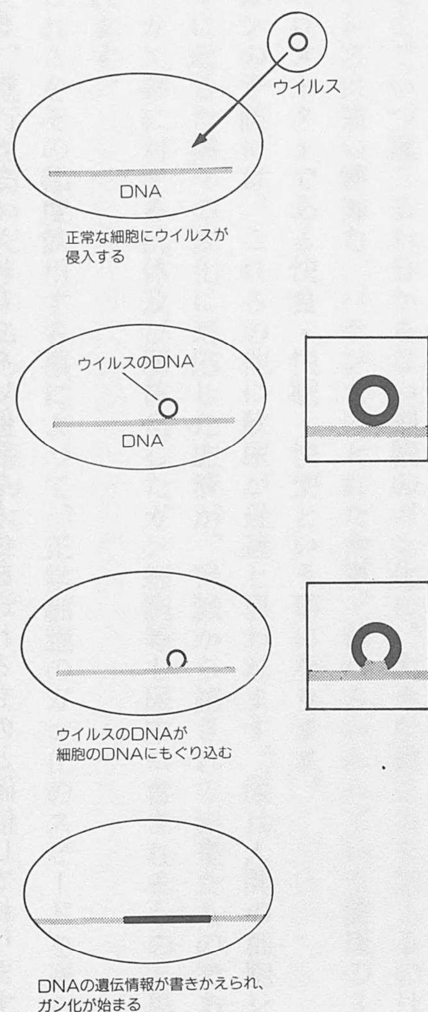
ガンの予防には、これらの他に飲尿が最適と思われます。尿は人間の細胞レベルに起きた様々の変化に対応した血液が、腎臓から濾されて出来たものであり、ガン等に対する抗体及び弱体化したガン細胞等も尿中に含まれるものと思われます。

これらをその都度飲用する事によって、正常細胞のガン化のスピードを遅らせたり、進行を防いだりするものと思われます。

以上を考えますと、バランスのとれた農薬等で害されていない食事を摂り、物事にくよくよせず我身に振り掛るあらゆるストレスに対しても、プラス指向

型でストレスを快楽に変えてしまう精神力を持ち、平素より朝一杯のオシッコを飲んで、体の血行を良くすることにより、冷症・便秘症・自律神経のバランスを保って、一生ガンにならない健康な人生を送れるものと確信しております。

発ガンのメカニズム



２・２　ガンは慢性且つ全身の老化病である

佐野鎌太郎

ガンは自分で作って、自分で治すもの、若し貴方がガンになったとしよう。その責任は、殆ど貴方自身の生活態度によるものであり、主に正常細胞がガン細胞になる原因は、ストレス・便秘・冷症が大きな原因なのである。

正常細胞からガン細胞になる迄の期間は、20年〜30年はかかると言われる。そういう点から考えると、我々の人世は、ガンになる迄の行ったり来たりの道程を歩んでいる様なものである。

ガンというものは、部分的な病気ではなく、全身の退化病（老化病）であるといわれる。成人病と言われる高血圧、狭心症、脳軟化症などと同じ細胞の老化した結果起こる、老化病の最悪の病気とも言われる。

一旦ガンになってしまうと、余程早期発見、早期手術以外には再発なく人生を完うする事は出来ない。

たとえ、早期発見、早期手術をして完全にガンを除去し得たとしても、本人が病気の事を正確に把握せず、以前の様なストレスの多い、便秘を何とも思わず、バランスのとれた食事を摂らない限り（昔はこの事を不養生という）、必ず他の臓器からガンが発生する事は間違いない。

ガンになるのは本人の心構え、また生活態度の乱れより来る、といわれる事を良く認識すれば、適切な医師の処置を受けた後は、自分でガンを克服するか、或いは共存する事によって、一生を完うすることも不可能ではないのである。

メキシコに於けるゲルソン病院、コントレラス病院、英国のブリストル病院、日本の今村光一氏の主催する医聖会グループ、またゲルソン療法を主体とし、それに東洋医学的医療に基づく尿療法を取り入れている私の病院等では、主に栄養療法（無農薬に近いリンゴ、人参のジュース、生野菜の摂取、無漂白の穀物、玄米食、青汁療法）等では、約1カ月〜2カ月の入院加療後は、自宅でこの栄養療法を中心に、ガンの再発もなく、快適な生活をしている人が多いのである。

西洋医学を中心とする一流病院のガンの早期発見、早期手術、抗ガン剤投与、放射線療法が主たるものであるが、医師が効果ありと自信をもって行うものは手術のみであり、制ガン剤や放射線療法は、手術の出来なかった人に対して行い、また手術後再発防止の意味で補助手段として行う事が多い。

抗ガン物資投与、放射線療法は決して無効とはいえないが、医師が再発防止の念強く、幾度も繰返し行うことは、患者自体のガンに対する免疫機能を極度に低下させ、自然治癒力を減少させてしまう結果、逆にガンの再発を促進させ、生存期間を短くしてしまう結果にもなり得る。

私の考えでは、ガンにかかって入院加療が終わり、退院した時点から尿療法、ゲルソン療法を始める方が、ガンの治療には効果的であり、延命乃至は完治に至るものと思う。

この尿療法、及び栄養療法は、貴方自らがガンは必ず治る、という信念に基づいて行う事によって、効果が倍増するものです。

ゲルソン療法の時間スケジュール

佐野外科医院

時間	Ⓐ ジュースそれぞれ8オンス	Ⓑ 食事	Ⓒ 亜麻仁油	医療上の処置 Ⓓ ペプシン剤・アシドール	Ⓔ カリウム剤	Ⓕ ルゴール溶液	Ⓖ 甲状腺剤	Ⓗ ナイアシン	Ⓘ パンクレアチン	Ⓙ レバーのエキスとビタミンB_{12}	Ⓚ コーヒーの浣腸	Ⓛ ひまし油の浣腸	Ⓜ 検査
午前 8：00	オレンジ	朝食		2	4	3	1	1	3	1日1回	4時間に1回あるいは必要な場合はそれ以上やる	1日おきにやる	血液検査、尿検査、甲状腺機能検査など
9：00	青菜野菜				4								
10：00	リンゴ・人参				4	3	1	1					
11：00	レバー		医療上の処置なし										
12：00	青菜野菜				4								
午後 1：00	リンゴ・人参	昼食	1	2	4	3	1	1	3				
2：00	青菜野菜				4								
3：00	レバー		医療上の処置なし										
4：00	レバー		医療上の処置なし										
5：00	リンゴ・人参				4	3	1	1	3				
5：30	リンゴ・人参				4	3							
6：00	青菜野菜				4			1					
7：00	リンゴ・人参	夕食	1	2	4	3	1	1	3				

これを守ればガンにならない

ガン予防要素	ガン促進要素
ブロッコリー	フランクフルトソーセージ
カリフラワー	ベーコン
芽キャベツ	ソーセージ
アメリカほうふう	ボロニアソーセージ
ニンジン	バター
トマト	クリーム
ミカン類	クリームチーズ
さつまいも	マーガリン
牛　乳	マヨネーズ
ほうれん草	砂　糖
カボチャ	サッカリン
レタス	コーヒー
パセリ	アルコール類
アスパラガス	
オウガラシ	
ひまわりの種	
小麦胚芽及びフスマ	
レバー	
全粒穀類	
ビタミンA.C.E	
セレニウム	

1．脂肪を減らす　2．野菜をもっととる
3．腹八分目に食べる　4．繊維をもっととる
5．ビタミン類は十分に　6．亜鉛とセレニウムは適量を維持する
7．ヨーグルトなど有用菌を利用する

2・3　ガンと知って、ガンと戦う

佐野鎌太郎

我が国日本では、ガンは不治の病であると思っている。早期発見、早期手術をすることによって、ガンが100%治る例もあるが、極く稀である。医師も一般大衆も、ガンは治らない、結局は死んでしまうものである、と思っているから、ガン患者にガンを知らせることは、法廷で死刑を宣告すると同じに考えている。

故にガンを知らせる事を、告知という難しい言葉を使うのである。かつて結核は不治の病と言われた頃は、その患者に結核であるとは告げなかったであろう。

では現在ではどうであろうか。結核に対する幾多の特効薬の出現により、最早不治の病ではなくなって、結核に対して我々医師は治るという自信を持って、患者にその病名を告げるであろう。

ガンは慢性の老化病であり、その治療に当たって、栄養及び解毒に治療の焦点を合わせるならば、ガンは治るのである。人間の構成する細胞ガンに芽ばえてから、医師の言う早期ガン（大豆大のガン）に達する迄に20年から30年の長い月日を経ているのである。

このガン化への段階は6段階に分かれ、ガン化は一方的にすすむのではなく、3〜4段階へ、或いは4〜3段階へと逆戻りする事もあるのである。

故に我々の一生で、幸いにして第6段階ガンにならないとしても、体はガン細胞の一歩手前の3・4・5段階を往復しているのである。

平素より、血液の分身である尿を飲尿する事により、細胞のガン化への度合いの進行を防止し、逆にガン化の少ない細胞に戻す使用が考えられる。飲尿によって、ガンの進行度を阻止し、ガンの発生を食い止めるのである。

私のガンに対する療法態度は、尿療法、栄養療法、解毒療法、その他の人間の持つ自然治癒力を増強する。あらゆる手段を用いて、ガンの療法に取り組み、ガンは治るという信念に燃えて、日々治療に当たっている。

ガンになる患者は、性格的に几帳面で、ストレスを外に放出しないタイプの

人が多い。そして非常に強い自我を持っている。その様な患者に、ガンを告知し、自分でもガンは治るという信念を持たせ、私と同じあらゆる治療に従うならば、ガンの治る確立は大きいのである。

　ガンになる性格の持ち主は、ガンと知るやその病に必死になって取り組む性格の持ち主でもあるのです。

　制ガン剤、放射線療法は非常に切れ味のよい治療効果の高い医学的手段ではありますが、他方慢性の老化よりなるガン患者にとって3・4・5段階の前ガン状態の細胞までも更に老化をすすめ、ガン細胞にさせてしまう恐れもあります。

　よって現在のガン治療の理想は、早期発見、早期手術による患者の術後の養生にて、100％ガンを撲滅する事ですが、全てが早期ガンとは限りません。ガンのすすんだ進行ガンに対しても、手術後はコバルト、制ガン剤等もほどほどにし、栄養療法、体内の解毒療法、免疫療法に大いに注目し、治療の重点をそちらに置き、細胞の活性化を計る方が延命策としても賢明であり、それが早期ガンでなくても、永久治癒に継る道と信じます。

　人事をつくして天命を待つ、のことわざ通り、患者も自分の病気をよく知り、栄養、解毒療法に努めるならば、医師の免疫療法と共に、かなりの永久治癒は得られると確信して居ります。

　尿療法は全身の血行を良くし、細胞の活性化を高め、尿中に排泄された抗体、並びに弱体化したガン細胞を飲用する事により、生ワクチン的な作用を期待し得るものと思います。

2・4　ガンを告知するとガン病棟が明るくなる

佐野鎌太郎

ガンを告知するのは、医師がガンは治る可能性があるという確信を持っている事が第一条件である。

現代医学のガンに対する考え方は、この様な治療をすれば、何カ月後には死亡する、という統計までが比較的明確に出されており、その通りの治療をし、統計通りにガン患者は死亡してゆく。

日本のガン専門病院の所長の多くがガンで亡くなっている、ということは、現代のガン治療の限度を明確に示しているものと思われる。

ガン治療の見方を少し変えて、ガンの患者にも自分の体が自分のガンを死滅させる能力があり、その能力を助長させてやるという治療に目を向ければ、ガンも決して不治の病とはいえなくなるであろう。

他の病院から全ての現代医学を終えて、その外に行う術をなくしたガン患者

の声に耳を傾けてみよう。

2・5　ケースA／肝臓ガン・水沢　重郎48

私の病気は、昭和六三年四月の職場内の健康診断により、ＧＴＰ・ＧＯＴが二百以上の数値が出ているので、一般病院で再検査して下さいとの連絡があったので、東京警察病院で検査した結果、すでに安全範囲に数値がはいっていて心配ないとのことでした。

毎月一回通院し、疲れ等もなく、先生の診断も慢性肝炎であるということで、通院も三カ月に一回となりしているうちに、通院しなくなり、普通の生活に戻り元気に勤務しておりましたが、平成二年四月の定期検査で、胃の再検査を立川中央病院で実施した所、胃炎であるとのことで薬はくれなかった。

本人は痛くも何ともありませんでしたが、平成三年一月初め、胃の付近が重く痛くなり、平成三年一月二十四日、杏林大学病院で診察して、平成三年二月四日、胃カメラを飲み、十六日エコーを実施したところ、肝臓脾臓が肥大しているので入院です、といわれ、三月四日入院、三月七日一四時より腹部血管造影撮影を実施して、ベッドに帰ってきたが、これから二四時間絶対安静にして

いなければならない。

この室は六名室であるが、互いが朝の挨拶だけで、普段は常に自分の前のカーテンを引き、病院が暗く、励ましあうことも出来ず、これでは治る病気も悪くなるような気がしていたところ、八日の午前中、妻に病院を代えるからと言われたが、何の事だか分からず、もうろうとしている頭で、俺はここで良いと言った。

家族・妻たちは、先生に放射線、抗ガン剤等を使用しないうちに退院させて下さいとお願いしたが、病院側は絶対だめだといい、それではもう一度本人に聞きましょうという事になり、妻が私のベットの所で貴方は肝臓ガンなの、と言った。

しかしすぐには信じる事が出来なかったが、山梨に佐野病院という良い病院があるので、これから行くといわれた。

また、この病院を知ったのは、妻の友達が杏林病院では、抗ガン剤で治療を受けていることを聞き、夜遅く遠方より車で駆けつけてくれ、今村先生のゲルソン療法の本と、ビデオを持って来てくれて、この佐野外科を知った。

八日妻が佐野外科に電話し、三回目にやっと話が出来、妻が泣きながら病状説明を行い、それならすぐ来なさいといわれた。

杏林を十五時に民間救急で出発し、十七時に佐野外科に到着、院長始め全員の方に雨の中迎えられた。

尿療法の事について何も知らない私は、院長先生のあの力強い言葉で「あんたの病気は絶対オシッコを飲めばすぐ治る」と力説され、食事は全部食べ、俺はこれで治るんだという気持ちを強く持ちなさい、といわれた。

この一言でよし俺もやってやるという気持ちになれた。しかし一番初め、尿をジョッキに入れてきたのはいいが、色は茶色く、一口口にいれるまで二時間くらいかかったが、一度決意すれば後はジョッキのオシッコを見ては、一口ずつガン細胞を退治してこいと命令しながら飲みほして、本日で十日になりますが、兄弟、親戚の人にも、顔色が非常に良く、元気になったと安心して帰っていきます。

それはこの病院の雰囲気が良く、特に同室の石橋、高崎両氏が親切で明るく、とても病気と戦っている人達とは思えませんでした。このような病院がもっと

沢山出来れば、助かる人がもっと多数出るでしょう。

最後に、この病院に入れた私は幸せ者です。

2・6　ケースB／悪性リンパ腫・長崎光一郎56

私は56才になる理容師です。病気に気付いたのは昨年の12月でした。大阪府のある病院で診察を受け、今年の1月25日手術を受け、結果も知らされないまま、不安の毎日でした。

そして結局はリニャック抗ガン剤による治療でした。全身の力が抜け、先生方も恐ろしい人に見えて、生きた気持ちがしませんでした。

娘達家族全員が必死になって、今お世話になっている佐野先生を見つけてくれたのです。僅か3日間の間に、娘達の必死の連携プレーでした。そのきっかけは、今村光一訳のゲルソン療法の本を手にした事です。先生より資料を頂き、川崎市の木村様という女性の方を知った事です。

その木村さんの知人で、佐野先生に治療して頂いて、元気に過ごしておられる方がある、と聞かせて貰い、そこで佐野先生を知り得たのです。

娘が佐野先生に電話し、先生が「大丈夫だよ、連れてきなさい」といってくれましたよ、と聞かされた時は、地獄で仏に救われた思いでした。

2月28日午後甲府市へ、佐野病院の事務長さん、婦長さん等、皆々様の暖かい出会いに感謝の気持ちでいっぱいでした。

そして3月1日より尿療法や、その他種々の治療が始まりました。佐野院長を信じ、いわれた様に尿を飲めば治るんだ、その信念で飲み始め、今日で18日、好転反応は3日4日で先ず髪の毛が黒くなり始めた事です。これは利くぞ、飲めばきっと治ると確信しました。

病院の中は皆様明るく、本当に良い環境に置いて頂き、院長先生、皆々様に有り難うの感謝の気持ちでいっぱいです。

18日現在、髪の毛も抜けていないのに気付きました。

2・7 ケースC／肺臓ガン・小山 常雄63

平成2年2月15日、熊本市の国立病院で、右肺の3分の1を摘出、同年12月再発し、平成3年1月早々に再入院をすすめられました。

主治医の先生も、何もしないでいるより、積極的に治療した方が良いですよ、思い切ってやりましょう、今なら体力もあり、予定通りに治療が出来ると思いますから、頑張って治療しましょう、と抗ガン剤の投与をすすめられました。

主治医には済まないと思いましたけれども、抗ガン剤の治療には踏み切れませんでした。抗ガン剤の恐ろしさについては、種々と聞いていましたし、それに食事療法によって、末期ガン患者が治ったと書いてある本を読み、この療法でやりたいな、と思っていました。

我が国でもゲルソン療法に理解を示している病院も幾つかありますが、佐野外科医院は院長自ら外国に行かれ、ゲルソン病院を始め、数カ所の病院の治療の実態をつぶさに見てこられた、熱心な先生であると、今村光一先生に紹介されて、佐野外科に入院させて貰いました。平成3年2月2日でした。

院長先生が佐野外科の治療方針を説明された中に、当院はゲルソン療法と、尿療法を併せてやっているので、他の病院に較べて治療効果が上がっていると話され、尿を飲む事をすすめられました。

最初は些か抵抗を感じましたが、病気を治すためであり、また院長先生始め院内すべての人達も飲んでいると聞きまして、飲み始める事に踏み切ったのです。

入院、つまり尿療法を始めてから二週間目頃に熱が出て、食欲もなくなり、下痢もしました。それも四日間で状態も良くなり、元気を取り戻しました。

入院して二カ月近くなり、3月の末には退院の予定です。ここまで来れたのも、院長先生の暖かい御指導の賜と感謝しております。

また同室の患者さん達も、皆同病の人達ですが、良い人達ばかりでいつも明るく、暗さは全く感じられず、笑い声が部屋一杯に充ちています。この人達と一緒に治療出来る事を幸福に思っています。

退院後も、院長先生の教えを守りながら、ガンは自分で絶対に治すのだという信念のもとに、毎日毎日を頑張っていきます。

2・8　ケースD／骨ガン・石川　恒美43

私は、広告関係の仕事をしている四十三才のデザイナーです。仕事柄生活は不規則になりがちで、夜は遅く、徹夜作業などは当たり前の毎日でした。しかも少しでも暇が出来れば、深酒につながる夜遊びと決まっておりました。四十才を過ぎると、若い頃とは違い、無理もきかなくなり、健康にも多少は気を使うようにはなったのですが、それも気ばかりで、相変わらず酒を飲んでは不摂生を繰り返しておりました。

そんな折、四十二才の厄年を期に、人間ドックへ入り調べてもらった処、病気こそ宣告されなかったものの、肝臓、コレステロール、血糖値と、どれをとっても、データー的には悪く、不摂生を戒められました。

然し喉元過ぎれば何とやらで、酒の回数こそ減らしたものの、人との付き合いを名目に、夜更かしと酒はやめられませんでした。

その頃、二日酔いが三日酔いになり、少し飲んだだけで悪酔いしてしまい、体に一抹の不安を感じるようになりました。

そんな或る日、本屋の店頭で、何時かテレビで見た、中尾先生の「奇跡の起る尿療法」なる本が目に止まりました。私は医者嫌いの臆病者、その本に出会った時は、まさに天の助けとばかり、何度も読み返し、恐る恐る実行してみようと試み、数度の挑戦の末、オロナミンCで割ったコップ一杯の尿を一気に飲みました。

「お、これならいける」が、最初の印象でした。次に飲む時は、もう何も入れないで、そのままストレートで飲む事が出来、想像以上に飲みにくくはなかったのですが、小便は汚いというイメージがあったので、抵抗は非常にあったのです。

しかし、これで健康になれるなら御安い御用と許り、「朝一杯」は必ず飲み続けよう、と自分に言い聞かせました。それに人間ドックを半年に控え、入院にでもなったらそれこそ一大事、ドックのデーター改善を目指し、人体実験よろしく、軽い気持ちで平成2年の9月の中旬より尿療法を開始したのでした。

とは言え、半信半疑の体験ですから、出張先とか忙しい時は、つい飲まなかったり、挫折しそうになったりもしました。そんな時には「尿療法の本」を、

何度も読み返し、自分に勇気付け、朝の一杯は極力飲むよう努力しました。
開始してから10日程で、左足の付根あたりの筋肉が突張り始め、二週間程したら駆足が困難になりました。これがあの好転反応かと思い、尿をさらに飲み続けました。
10月、11月と駆足こそ出来なかったものの、痛みもさ程無く、普通の生活が出来ました。然し12月に入ると痛み出し、年が明け平成3年の2月頃になると、痛みも激しくなり、仕事も手につかない状態でした。
好転反応だと思い込んでは、医者を拒否し続けて来ましたが、激痛に堪えかねて、町の個人病院へ行き、レントゲンを撮ってもらいました。
医者は溜息まじりに「ウチでは手に負えないから、大きな病院に行って精密検査を受けた方がいい」そういって紹介状を渡されました。その時の私は、目の前が真暗になり、地獄に突き落とされた様な気持ちでした。
一度は紹介された大病院へ行こうと思いましたが、今まで実行して来た尿療法が悪い筈がないし、折角の努力を水の泡にしたく無かったので、無理を承知で「尿療法」の著者である山梨の中尾良一先生に、直接電話をしてみました。

偶然、先生は上京されて居り、運良くその日のうちに先生にお会いする事が出来ました。超多忙の中、見ず知らずの私如きに、時間を割いて頂き、親切にご指導して下さいました。
先生はレントゲン写真を見て「こんなものすぐ治る、小便を沢山飲め、俺が名外科医を紹介してやる」と言ってくれました。
私はその一言を聞いたとたん、重くのしかかっていた恐怖心が消え、急に元気になり、食欲も湧いてきました。何と現金なものかと、我ながら呆れてしまいました。
さて、そのようにして紹介して頂いたのが今お世話になっている佐野外科医院でした。入院当日院長先生始め、婦長さん、事務長さんと面接しました。皆様の物腰の柔らかさと、医者を気取らない、ざっくばらんな院長先生の人柄が、さらに私を病気の恐怖心から救ってくれました。
院長先生は、私を見るなり「おお、いい顔色をしている。大丈夫だ、たいした事はない、小便を沢山飲め、俺にまかせておけ」、如何にも柔道家らしい豪快で、頼り甲斐のある一言、これを聞いた時、私は「この先生なら俺の命を預け

られるな」、大袈裟かも知れませんが本当にそう思えたのです。

自然食を食べ、ゲルソン療法と、尿療法主体の入院生活が早速始まりました。入院して5日程して、もう一度レントゲンを撮ってもらい、診断の結果を直接お聞きしました。左の腰骨の一部がガンに侵され、完治迄3年はかかる、と宣告されました。実に爽やかな気分で説明をお聞きする事が出来ました。

これも院長先生を始め、スタッフの方々の自信と、並々ならぬ献身のお陰と、心から感謝しております。

兎に角、病院でありながら病院らしくない、のびのびした環境の中で、入院生活が苦痛でなく、むしろ楽しい位です。私達患者は先ず精神的に強くなって行く様な気がします。

皮肉にも健康のために始めた筈の尿療法が「とんでもない病気」の早期発見(私はそう信じます)につながった思うと、驚かずにはいられません。病気は自らが治すもの、医者と薬はそのサポートに過ぎない。という院長先生の言葉通り、どんな病も気持ちからと思います。

私はこの度こんな病魔に侵されたのも、体を粗末にした天罰であり、大きな

人生の転換期を神に与えられたものと、甘んじて受けるつもりです。

未だ入院して2週間程ですが、好転反応に悩まされながらも、体調はすこぶる良い様です。先生を信じ、スタッフの方々の献身を無駄にしないよう、切り札の尿療法と、絶対に治るのだ、という信念で闘病生活を乗り切って行こうと思っています。

最後に病室のベットより一句、「我、百万の味方を得たり尿療法」。

院長先生、並にスタッフの皆さん、何よりも精神的な元気を与えて下さって本当に有難う。そしてこれからも宜しくお願い致します。

2・9　ケースE／腎臓ガン・天野　和絵54

私が腎臓に異状ありと指摘されたのは、娘の勤務先の総合病院で毎年受けていた健康診断でした。

平成二年十一月十五日でした。家族が主治医に呼ばれ、入院するようにと言われたとの事、平成二年十二月一日入院し、再検査の結果では、手術が必要と言われ、主治医には右腎血管筋腫と聞かされました。

手術はいやだといったのですが、医師や家族は良性だし、腎臓は左右一個ずつあるし、一個でも腎臓機能はすると聞かされ、手術に応じました。しかし不安はありました。

手術後の経過は良好でしたが、退院間近になって私と同じ検査を受ける若い患者が入院してきました。その患者が不在の時に、付き添いの母親が私に「私共の娘は悪性なので、右の腎臓の摘出手術を受けるのです」と、何げなく話した言葉に、私は大ショックを受けました。

私と同じではないか、私も悪性なんだと思うようになり、食事もできない程

になってしまいました。そんな私をみて娘は、母さんのは良性だから気にしないの、良性の血管筋腫なんだから心配ないから、と毎日のように元気出してと励ましてくれていました。

どんなに無理を言っても腹を立てず、やさしくされればされる程、ガンに対しての不信を抱くようになりました。

そして退院の前日、冷静な気持ちで主治医に本当の病名を知りたいとお願いしましたが駄目でした。ガンであるのなら命ある内にやりとげておきたい事もあるのに、と思うと涙、涙でした。

退院後も娘の顔をみる度に、私の病気はなんなのよ、と心の中で毎日さけんでおりました。娘に不機嫌な態度を取る事も度々でした。娘も心は分かっていたと思うのです。そんな娘も毎日がつらく、ずいぶん疲れているようでした。

でも、本当の病名をどうしてもはっきりと知りたくて、不安で毎日を過ごすなんて、自分が哀れで誰か自分の病名をはっきりと教えて下さる方はないものかと考え、以前から壮快を読んで知っておりました、佐野先生にお電話で相談しました。

先生はすぐ私の病名を確認して下さいました。そして「あなたはガンです」と聞かされました。

やっぱりガンだったのかと思い、身体が急に熱くなりました。もう駄目だと思ったが、先生は「尿を飲みなさい」とおっしゃって下さり、またいろいろと励まして下さいました。

私はすぐ入院したいとお願いしてしまいました。翌日家族に相談すると、もうどこも悪くないのに、それに甲府市まで行かなくても良いのに、と大反対です。それはそうです、私がガンである事を、娘は私が知らないと思っているのですから。

しかし私は娘に、佐野先生にはお目にかかった事はないけれど、信頼のできる先生です。自分一人でも行きます。今は身体はどうもないかもしれないが、私はどうしても先生の治療を受けたいのです。と言うと、娘も同行してくれました。

そんな娘に私はガンだったんでしょうと話す事もできず、甲府市へと車を走らせました。

平成三年二月十六日の事です。この日が入院日、初めてお目にかかった佐野先生は、温厚な方に見受けました。

入院してこれらの治療の受け方等を詳しく説明して下さり、そこで娘は初めて私がガンである事をすでに知っていたのか、と分かったようです。私にどうしてと尋ねましたが、佐野先生によって知らされた事を話しました。

その夜、娘は私に本当の事が言えずごめんなさい、と泣きました。手術して退院後は自分はガンではないのかと、毎日が不安で夜も眠れなくなってしまいましたが、ガンである事がはっきりと分かれば、最初はショックを受けますが、自分のため家族のために自分も頑張ろうと思うようになると思うし、告知は必要と思います。

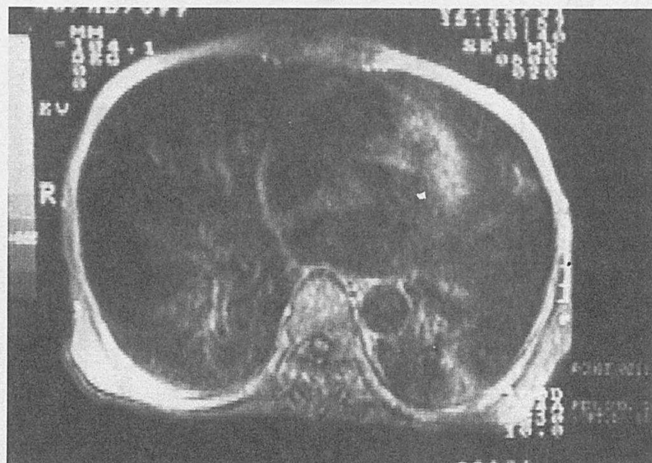
佐野外科医院に入院して「ガン」という言葉も恐れる事なく、患者の皆様と話もできるようになり、尿療法も入院と同時に朝昼晩とコップに五回は飲んでいます。

今は身体中が痛くなったり食欲がなくなり、毎日気分が悪いのですが、これが好転反応なのだろうと頑張っています。毎日先生の回診で「ガンバレヨ！」

の一言に「頑張ります」と答えられるようになりました。これも佐野先生に告知して頂いたお陰と感謝しております。

第3章

ガンに対する私の治療方針



３・１　ガンに対する私の治療方針

佐野鎌太郎

私のガンに対する治療の方針は、ガンになったのは貴方の責任だから、貴方が責任をもって治しなさい。その手助けを医師である私がして差し上げる、という誠に突パネた様な冷酷の様なものである。

ガン患者は、性格的に頑固で几帳面で、ストレスを内蔵してしまう完全主義者が多い。また体質的には冷症、便秘症、偏食者に多くみられる。

ストレスを外に放出し、均整のとれた食生活に励み、自我を無くすことにより、他人との摩擦を極力減らし、人と和をもって世の中を渡って行く、という事が絶対に必要である。

ガンの治療には、現代医学の三種の神器ともいわれる、手術・制ガン剤・放射線治療等様々ある。私は主に、免疫・栄養・精神療法を主体にガン治療を行っている。これら数多くの治療の中に、私の経験から、尿療法が一番効果的で

あると信じている。
経済的であり、各細胞の活性化を高める事により、免疫療法にもつながり、また精神状態をリラックスさせる作用により、精神療法にもつながる。
尿中に含まれる、循環改善ホルモンにより、血液循環が改善されることにより、体全体の活性は高まり、冷え症、便秘症が治ってくる。

進行しすぎたガンに対しては、度重なる抗ガン剤、放射線療法により残り少ない免疫細胞が壊滅状態にある場合は、私の治療は通用しない場合もあります。

この様な時に、ビタミンCの大量療法、ビタミンB－17（杏の核よりとったもの）等により、奇跡的に死をまぬがれる例も少なくない。

他の病院で3カ月ももたないと判断され、藁をも掴む思いで、全国各地より当院に来て、治療を受け生還した患者さんの声を聞いてみよう。

佐野外科難病治療方針

当院は患者さんに対して、下記のような治療を独自に行って好成績を納めています。然しこれらの治療の中には、保険の適用にならないものもありますので、その費用は患者さんにご負担願うことになりますので、予め入院なさる時点に於いてご了承願いたいと思います。

1．ゲルソン療法による特別食事療法
2．尿療法
3．ビタミンC大量点滴静注
4．特別調剤薬
5．猿のこしかけ（クレスチン）
6．コーヒー浣腸
7．丸山ワクチン筋注
8．青菜汁療法
9．玄米食療法
10．リトリール（B－17）
11．各種ビタミン等大量投薬
12．セレニウム
13．月見草油
14．遠赤外線療法

を行いますが、入院の期間は症状に応じて
1カ月、2カ月、3カ月コースの3種類あり、院長が指示します。
当院の治療方針は最近の医学界の著しい傾向として
1．手術　2．制癌剤　3．放射腺治療の3つにのみ頼るのに対して、上記3項目に依存せず、免疫療法を中心とした自然治癒力を増強するという方法をとっています。その為には尿療法を始めとする上記の療法を行っているわけです。

3・2 ケースA／肝臓ガン・谷村 進60

平成元年3月1日、人間ドックに入り、肝臓機能が悪いと言われた。3月の下旬に総合病院で肝硬変といわれた。4月25日入院、諸検査及び制ガン剤の治療を受ける。平成2年4月頃より、尿療法を知りこれを始める。

平成2年11月20日、佐野外科へ来院、同月26日入院する。11月28日の検査により肝臓の右葉の後区域に、肝ガンを思わせる腫瘍を認める。12月5日の検査でも同様の腫瘍の陰影を認めた。12月11日入院時よりの治療により、腫瘍の陰影は消えた。

平成3年1月16日まで、腫瘍陰影はどこにも認められないが、同日のエコー検査で、肝臓S2の領域に腫瘍を認める。1月29日のエコーでも、同様の腫瘍の陰影を認める。

以上が入院経過であるが、入院中の当院のビタミンB－17の静注、ビタミンCの大量療法、（約20 grをブドウ糖液500 ccに溶かして点滴）、その他の免疫療法により、一般状態の著しい改善を見たので、平成3年1月27日退院を許可

した。

この例では、エコーによる肝臓ガンの陰影は、治療後約二週間で腫瘍の陰影が消え、退院間近になって再びその姿を現した例であるが、人間としての生活態度は、見違える程改善された例であります。

3・3　ケースB／食道ガン・古田　登58

平成2年、会社の検診で食道ポリープといわれ、また同年7月末に、あるガンセンターで内視鏡検査の結果、食道ガンと判明、手術をすすめられたが、どうしても手術を希望せず、尿療法を知りそれにかけて平成2年9月10日佐野外科に入院した。

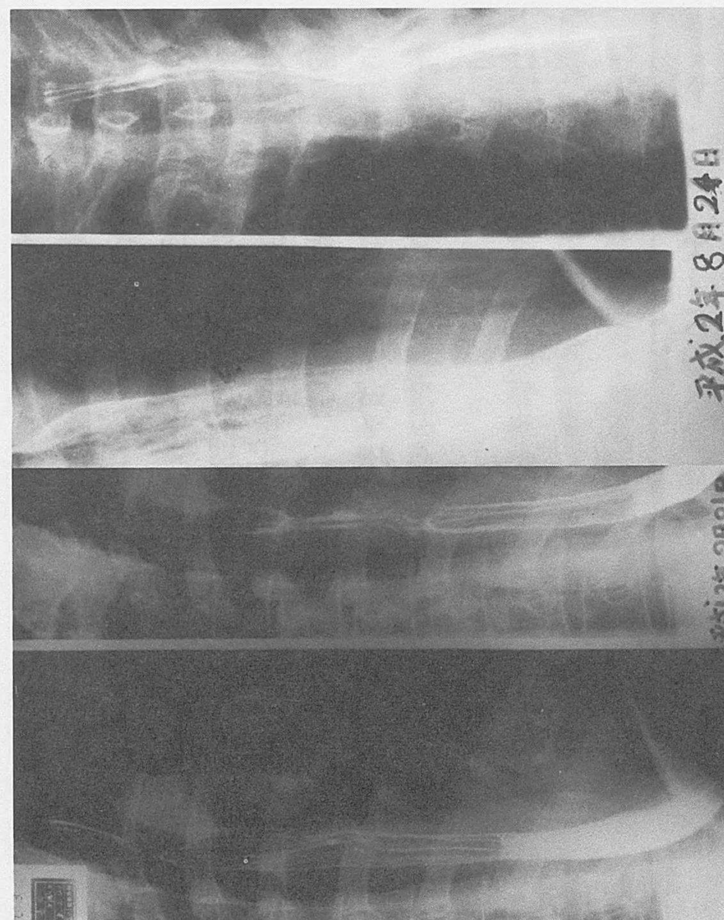
本人の尿療法にかける意気込みはすさまじく、絶対手術をしないで治してみせる、という根性で免疫療法を中心とする、佐野外科の治療方針を忠実に守り、入院二カ月後に退院する。

退院後は入院中の治療を厳守し、退院四カ月後、元気な姿で来院し、食道のバリウム検査を行ったところ、四カ月前の食道ガンはなく、その場所が傷跡の様に残っているのみであった。

次回に来院する時は、胃ファイバーで検査する予定であるが、本人はすこぶる元気で、何ら嚥下障害を訴えていない。

医師である私も、彼の信念と尿療法、ゲルソン療法を中心とした栄養療法の

効果に驚いている。



①食道ガンがはっきりと写っている
②療法開始半年後、ほとんどガンは消えてしまっている

3・4　ケースC／乳ガン、骨、肝転移・遠藤　敏子56

昭和63年８月、右の乳首にガンが生じ、手術後一カ月間、放射線治療、抗ガン剤服用を行い、著しい体力の消耗を見る。平成元年２月８日、骨転移を言い渡され、同年10月雑誌壮快を見て、家族相談の上、10月26日佐野外科に入院となる。

来院時、右足の大腿部の疼痛あり、歩行障害を伴う。10月31日エコー検査でガンの肝転移を認める。腹部に腹水が溜まっている。

入院時より、暫時足の大腿部の疼痛は完快し、食欲も増し、患者の健康状態が著しく好転し、本人の希望もあり、11月24日退院する。

退院後、私（院長）が電話して様子を伺うと、自分の家の畑で無農薬の野菜を作り、また無農薬のミカン等を豊富にとり、約一カ月の入院経験を充分に活かして生活し、大変元気になって旅行等を楽しんでいるとの事であった。

現代医学の一般常識からすれば、骨や肝臓までガンが飛び火している患者が、かくも元気になるということは、考えられない事であるが、有名な医学ジャー

ナリスト今村光一氏のいう、ガンは栄養療法で治る、という実例を物語っている症例である。

3・5　ケースD／肝臓ガン、総胆管ガン・畠山由美子53

平成2年7月9日、総胆管ガンの病名で手術しました所、腹部全域にガンが散らばっていて、肛門部にくるみ大のガンと総胆管の部位にも、ガンの飛び火があり、総胆管の飛び火は極力取り除いて、直径5㎜まで確保した。(通常は10㎜～20㎜)何等すべき手はなく、そのまま腹を閉じ、手術室に呼ばれた夫は、お腹中に展ったガンを見て、恐ろしさの余り腰を抜かさんばかりでした。

医師からは、長く保って三カ月と言い渡されました。佐野外科の存在を壮快にて知り、抜糸と共に遠く山梨の佐野外科に入院しました。7月20日入院し、25日のエコー検査で、肝ガンの陰影がありましたが、8月1日のエコー検査ではその陰影は消失しております。

それ以後の患者の状態は、重症な好転反応はありましたが、一週間位でこれもおさまり、明らかな腫瘍の影は見当たらず、9月19日のエコーで総胆管の拡張を認める程度の所見がありました。その時に左の肺にもガンの飛び火を思わせる影が認められます。

9月26日、再びエコーで肝臓ガンの陰影が認められてきました。その大きさは5㎜程度です。

それ以後陰影の大きさは変化なく、一般状態の改善をみたので、11月2日退院し、どの位自宅治療が出来るか試してみた。

所沢の自宅に帰ってから、近医にかかっていたが、治療の内容の異なることから、患者の精神的な動揺も手伝い、平成2年12月9日、たっての希望で再入院して参りました。

再入院後、新しく取り入れたビタミンB－17、ビタミンCの大量投与により、体質の改善が行われ、肝門部の腫瘍もくるみ大から2㎜程度のものに縮小したが、黄胆が続き、胆管の拡張があった為、胆汁の外瘻造設を行う。

造設部より排出する胆汁を経口的に引用する事により、一般状態の悪化を認めず、体重の減少はあるものの、食欲等は旺盛となり、日本医大で総胆管に管を通じて貰って、胆汁が正常なルートを通って十二指腸に流れ込む手術を行ってもらうべく、2月27日転医をする。

それ以後の夫からの電話では、栄養状態もよくなり、現在では歩行の練習を

しているとの事であった。

せいぜい一カ月から二カ月の命といわれた人が、八カ月経った現在、生きる方向に力強く歩み始めているのである。

肝臓ガンのエコー検査では、ガンの影が出来たり消えたりする事は、良くある事だといわれている。ただ検査に頼るだけでなく、患者の食欲、顔色、舌の状態等で一般状態の良否を判定するのも大切だと思います。

3・6　ケースE／子宮筋腫、卵巣ガン・上野かよ子50

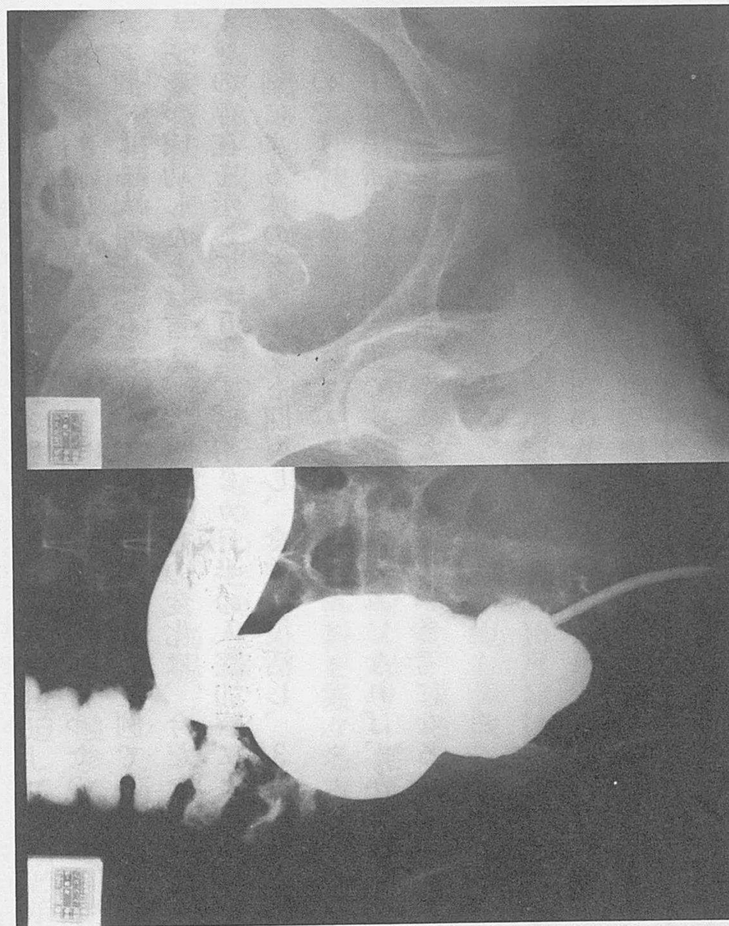
1989年7月27日、子宮筋腫及び卵巣ガンの診断を受け手術をしましたが、骨盤腔内全域を占める、強度のガンの癒着のため、手術が不可能でした。手術後、制ガン剤を2クール施行した後、10月13日、2度目の手術を試みましたが、制ガン剤の効果はなく、2度目の手術も失敗に終わりました。以後外来通院にて抗ガン物質を約2年半行い、脱毛する事2回、吐気、食欲不振、全身倦怠感等で、生きる望みは全くなくなり、無気力状態に陥り、その時フト「壮快」を読み尿療法を知り、佐野外科を遥々名古屋より訪れ、入院した患者さんです。

入院は平成3年1月7日、歩行もやっとの状態で、全身の極度の衰弱があり、早速尿療法、ゲルソンの栄養療法、コーヒー浣腸、その他の免疫療法等を行いました。当時排便障害があったので、大腸造影を行った所、肛門より圧を加えて注入するバリウムは、悉く肛門外へ弾き出され、触診による肛門検査では、子宮と卵巣と思われる一塊をなす腫瘍が、直腸を圧迫して、殆ど示指が通らな

い様な状態であった。

治療開始後、二週間を経過して再び大腸造影を行ったのが左の写真の通りで、ガン腫による大腸圧迫もとれ、大腸造影が成功した例であります。造影が成功したとは言え、大腸の走行の変化は、今だなお、子宮及び卵巣のガンの存在を示しております。約2カ月半の入院加療により、長期にわたる制ガン剤による体のダメージも回復し、食欲も復活し、3月25日退院の運びとなったのです。

以下は患者自身の闘病記です。よくお読みになれば、かなり長期間の制ガン剤でお悩みになった患者さんにとって、よい参考になると思います。



①子宮筋腫及び卵巣ガンがひどくバリュームがほとんど入って行かない
②療法開始して二週間すると、どうにかバリュームが通るようになってきた

平成3年1月7日、佐野外科医院に入院、正月早々のことでした。というのもこの日にT病院で第4クール目（1クール3回）の化学療法を受けることになっていたのでした。

T病院で子宮筋腫と卵巣のう腫の手術をしたのが平成元年の夏でした。今迄病気一つしたことのない私でしたので、手術をしてしまえば、また丈夫になれると安易な気持ちで手術を受けたのでした。

でもそれは私にとってもまた家族にとっても思いもかけぬ「ガン」というレッテルを貼られたのです。癒着のため今秋2度目の手術を受け、その間抗ガン剤の強い点滴を受け、心身共に苦しい日々でした。

それに輪をかけたように、頭髪がすっかり抜けてしまったのは、病の悲しみと共に女としての悲しみで打ちのめされました。でもこの化学療法を何回か受けると完全に治ると思っていたのでした。

しかし今回また抗ガン剤を受けることになり、もうこの治療に望みがなくなり、ただ副作用の恐ろしさを受ける時の苦しさを思うばかりで、このままいったら私は助からないかもしれないと思いました。

時同じくして「壮快」という本に「尿療法でガンが治る」ということを知り、ワラをもつかむ気持ちで、体に不安のあった私は12月の初めから出る尿を全部飲みました。

そうしたら一カ月もたたぬうちに、ひどかったアレルギー性鼻炎が治ってしまい、これには驚いてやはり尿療法には一理あると思いました。

佐野外科病院に入院して、尿療法・ゲルソン療法・丸山ワクチンと種々の療法を受けることができ、二カ月半で退院出来ることになりました。その間の佐野先生の真の医療にかける熱意にひかれ、心身共に治療していただけました。

またガン患者が沢山ですのに院内は明るく、不思議なくらいでした。

退院してからがガンとの戦いです。先生のご指導のもとに、一日一日を大切に生きていきたいと思います。

最後に抗ガン剤の恐ろしさから一人でも多くの人が救われますことを願うばかりです。

3・7　ケースF／食道ガン・佐藤　伸子57

ある日、お茶の水大学出身の才媛の方が、当院の外来を訪れた。一流大学の諸資料を携えて、自分の母親の病状について聞くと同時に、その病気に対する尿療法の如何を尋ねたのである。

病名は食道ガン、中等度進行していたものと言える。本人も軽度の自覚症状を訴えているとの事であった。持参してきたレントゲンフィルムを拝見すると、まぎれもなく食道ガンで、私はすぐ手術をすすめた。

然る後に免疫療法、栄養療法をする様に説得し、私の在局した東京女子医大の外科教授に手術を依頼した。

彼女は早速老母を伴って、外科教授を訪ね診察を受けたが、結果は私と同様に手術をすすめられた。一週間もしないうちに、大学より電話があり「君の紹介した患者が来ないが、どうなっているか」と言うので、私は驚いて彼女に電話したところ、老母は尿療法を始めてから体調が良くなり、手術の前に尿療法をもう少し続けたい、と言って聞かないとの事であった。

私も外科医に陳謝し、その旨を伝えた。その後彼女から貰った手紙をここにご披露し、皆さんの参考にしたい。

暖かな毎日が続いております。

手紙をお出しするのが遅くなり、本当に申し訳ありません。母が尿療法に本格的にとりくんで、未だ二カ月ですので、「治った」というには無理がありますが、取り敢えず、今日までの経過のみ、ご報告させて頂きます。

食道ガンの宣告を受けたのは、本年一月十一日でした。その際、医者からは、三カ月位で食道がつまってしまうだろう。と言われ、家族一同大変驚きました。幸い、以前から、西洋医学に疑問を持ち、食事療法、尿療法等の知識があった私は、迷わずに母に早速食事療法、尿療法を指示、助言したわけです。

病院の方からも、再三入院のおすすめを頂きましたが、その都度、佐野先生よりアドバイスを頂きながら、食事療法と尿療法に徹しました。但し以後蓮見

ワクチンも、二月に入ってから定期的に近所の医院で射って頂いております。

母は、食道という食べ物の通り道の障害にも拘わらず、今日迄玄米菜食を快適に行い、日毎に元気になってきている様に思えます。尿療法も一日三回、（一回70 ml位）を一日も欠かさず続けております。

やり始めた頃は、食道を通過する時に、もたつく様な感じが続いたそうです。然し、二週間位その様な状態が続いた後は、もたつく感じが消え、以前よりも通りの良い、スッキリした感じになったと言います。と同時に、次に胃の上部がもまれる様な症状が10日位続く様になり、それもまた症状が無くなると同時に、スッキリしてしまったわけですから、食事もおいしく、快眠、快便の状態が連日続いているわけです。

並行して、好転反応と思われる吹出物やおできが、体のあちこちにでては消えるという状態が続いております。体の治癒力が高まり、体内の毒素がその様な形であらわれたのだ、と思っています。顔色も良好、頭髪も前よりも黒くなったようにすら見受けられます。

毎年恒例の風邪もひかず、家事にいそしんでいる姿に、家族一同大変喜んで

います。

願わくば、この調子で完治に迄たどりついてほしいと念願しています。まだまだ油断は許されませんが、希望を胸に看病できそうです。

最後に、常に患者の立場に立ち、親身に前向きに助言して下さいました、佐野鎌太郎先生に深く感謝の念をあらわしまして、ペンをおかせて頂きます。



第4章 尿療法によるガン勝利者の声



4・1　ガンにまで効く尿療法

佐野鎌太郎

ガンの治療は患者が主役、医者が脇役、昨年8月今村光一氏の率いる、第18回アメリカ癌会議に出席した。ガンは栄養療法で治る、という案内書に、私は大いなる興味を覚えた。

我々医師の行うガンに対する治療法の中には、栄養療法というものは免疫療法と共に、極く僅かな存在価値しか与えられていない。栄養療法はむしろ逆にガンに栄養を与えてしまう、ということで敬遠される傾向にさえあった。

忙しい臨床の最中に、私はこの会議に参加するべく、ロスアンゼルスに向かった。当地のヒルトンホテルで朝7時から夜10時迄、ビッシリとガンに対する栄養療法、免疫療法、精神療法についての体験談、及びこれらの療法を実行して、ガンを克服した勝利者の体験談を充分に拝聴する機会を得た。

日本で殆ど重きを置かれていない栄養療法で、末期のガン患者がかなりの確

立で治癒するのである。また現在にこれらの治療法を主体とした病院を、アメリカ及びメキシコで数カ所見学して巡った。

栄養・免疫・ビタミン療法を主体としながらも、20%位の割に現代病院の手術、抗ガン剤、放射線療法を取り入れて治療しているコントレラス病院、(写真A)ここではビタミンB－17がかなりの効果があるものと思われ、他の数カ所の病院でも用いられていた。この病院では教会も併設され、悩み多き迷える患者の精神統一を計っていた。

もう一か所、私の印象に残った病院は、ゲルソン病院(写真B)といい、この病院はノーベル賞受賞者である、故アインシュタイン博士の主治医ゲルソン博士の創設した病院で、アインシュタインは生存中、博士を称して「近代稀に見る医学界の秀才である」と絶賛した医学者である。

このゲルソン病院は、厳しすぎると迄思える栄養療法、及びコーヒー浣腸という体内の解毒作用を主体とし、かなりのガン勝利者を送り出している。

この病院のまわりには、世界から治療を求めてガンの患者が集まっている。故ゲルソン博士の娘さんが、現在この病院の経営者となり、医者を雇用し、自

分はこの栄養療法に全情熱を傾け、ガン患者及びその家族達と三度の食事を共にしている姿は、私にはまさに父親のゲルソン療法を信奉している娘であり、求道者の姿に見え、日本の医師もこの様に患者とのスキンシップを保ち、栄養療法に重点を置くべきである、と痛感した。

さまざまな思いを胸に、帰途につく私の心は、これらの収穫を機に、現代医学より見放されたガン患者の一助ともなれば、と念じつつ、日本に向かうジェット機が遅くもどかしくさえ思ってならなかった。

日本に帰ってから、中尾先生の唱える尿療法が、末期ガンにも効いたという報告が、先生の下にチラホラと届く様になった。

尿療法は、老化現象である現代医学の不得意とする慢性疾患に、例外なく効果を示すことは、私の飲尿経験7年、病院の従業員、患者さん、及び50万部の発行部数を誇る一流健康雑誌、壮快に寄せられる、尿療法体験者の幾百通の感謝状からも、ほぼ確信するに足りるものと思う。

ガンが全身病であり、且つ最悪の慢性病であり、且つ老化病であるとするならば、細胞の活性化を促し、免疫力を高め、自然治癒力を増進するこの尿療法

が、ガンに効いても何ら矛盾は無い筈である。

　そこで早速、私は全国から集まる末期ガンの患者さんの承諾を得て、尿療法、栄養療法、免疫療法（丸山ワクチン等）、ビタミン大量投与療法を総合的に用いる事によって、思わぬ好成績を収める事に成功した。

　これも偏えに、医事評論家である今村光一氏によって、ガンに対する栄養療法に私の目を向けさせていただいたお陰と、私は感謝している。



写真Ａ



写真Ｂ

4・2　どうせ直腸ガンで一年後に死ぬのだから

電気工事士　渡辺　信　50才

昭和六一年十一月頃、体の異状に気がつくが、仕事が忙しく医者にもかからず年を越した。

六十二年四月頃便が出にくくなり、たまらなくなり五月一日病院に行き検査をしてもらった。その結果精密検査が必要とのこと。

五月八日に精密検査を行う。結果は五月十四日、思っていた通り直腸ガンと診断される。即入院、手術が必要とのこと。想像はしていたが、ショックも大きく会社も休むことにし、直腸ガンで手術をした患者さんの様子などをみていると、大体一年位で死亡してしまうので、どうせ一年後に死んでしまうならば、手術を見合わせようと病院にかからず、自宅での食事療法に専念する。

霊芝を煎じ、生姜湿布、干葉湯を使ったりしていました。そうして二カ月程休養しました。半年か一年の命ならば、働けるなら働こうと思い、七月十六日

から職場復帰をする。

仕事は夏は炎天下、冬は吹きさらしの場所できついが、頑張ることにしました。それから三年働くことが出来ました。

平成二年、体がもうひとつ思う様にいかず、座るにもおしりが痛く、大便もほとんど出なくなり、日常生活にも支障をきたす様になる。

十月末には入院しようと思っていた所、ある人から、山梨県甲府の佐野外科医院を知らされ、佐野先生のお世話になることにしました。

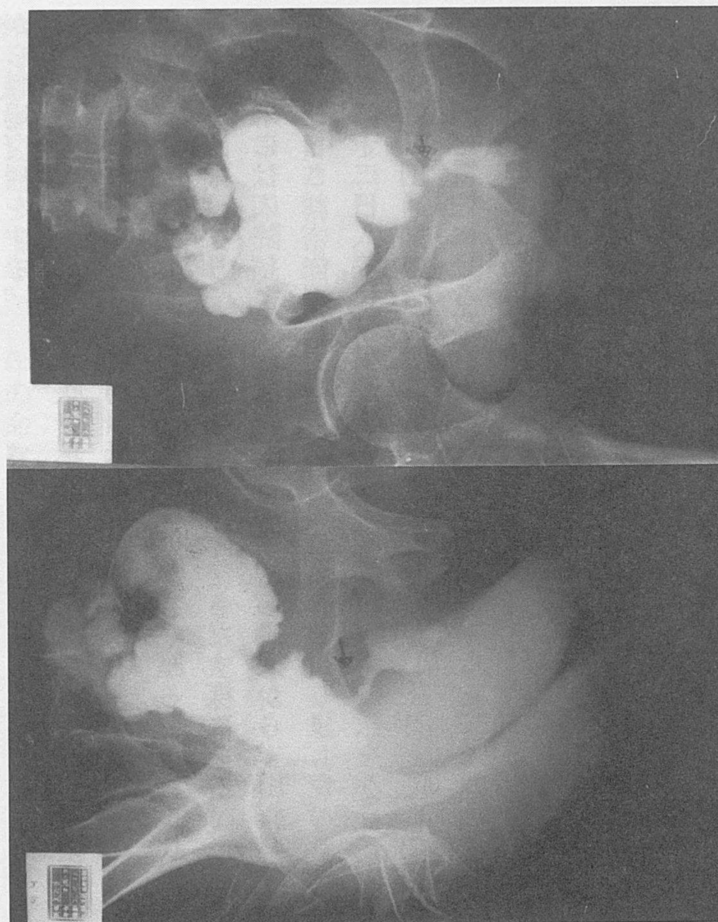
十月二十二日入院し、栄養療法、免疫療法、尿療法をうけ一カ月の後、十一月二十七日、通常の病院ではお腹をひらいて人工肛門を腹部に作る手術になるのですが、電柱に登る都合上、人工肛門をつけないでくれと院長にお頼みした所、それでは何とか肛門より癌を取り去って、肛門のある場所に人工肛門をつくってくれるということで、直腸の手術を受けました。

いろいろな療法のおかげで手術の結果も良く、無事十二月二十三日退院する事が出来、自宅に帰り、自宅療法に入っております。

おそわったいろいろな療法を続けております。現在元気に過ごしておる状態

です。

一日も早く職場に復帰出来る様に、がんばっています。



直腸ガンのため、極端に細くなっている肛門①と直腸②

4・3 胃ガンであと半年の命とまで言われたが

土橋 定一 63才

あれは、暮れも押し迫った平成2年11月下旬であった。貧血で知人に両肩を抱えられ、一路甲府の佐野外科へと向かった。

院長先生は、自分を見るなり、「なんだ、ガンだなぁ!」と言い、それからいろいろ親切に治療の計画を話してくれた。

あれ程手術が嫌で、出来る事なら手術をしない方法はないものかと、漢方や神頼みでしたが、この先生ならすべてを任せよう、と一瞬思ったものであった。

これもすべて運命の引き合わせと院長は言われた。何故ならば、その前に7月頃から胃の存在感があり、都内の大病院に通い、ある病院でレントゲン、胃カメラ等で、あと3～6カ月の生命といわれ、某病院へ入院の準備をすべて終えていたからだ。

そこえ佐野外科が末期のガンを救う、との情報が入ったからだ。正しく神の

引き寄せと思わざるを得なかった。

一番驚いたのは、入院してすぐ浣腸があり、約一週間位墨のような、真っ黒い便が続き、それから食欲も出、これなら手術をしなくてもよいか、と思う程だった。

それから尿療法をまずすすめられたが、入院してすぐの尿の味は、なんとなく飲みずらく、それでも朝、夜、コップ一杯ずつ飲み続けた。

然し入院後一カ月位から尿の味がすっきりし、色も透明感があり、非常に飲み易くなった。やはり食事療法の影響であろうか。

こうして、病院での総合療法により、今こうして全身が軽く、食欲もあり、まるで別人のような自分が信じられない程です。

尚、一番驚いた事は、入院中に次の症状が全部治った事です。

①副鼻炎の為、ガスの臭いもわからなかったのが治った事。

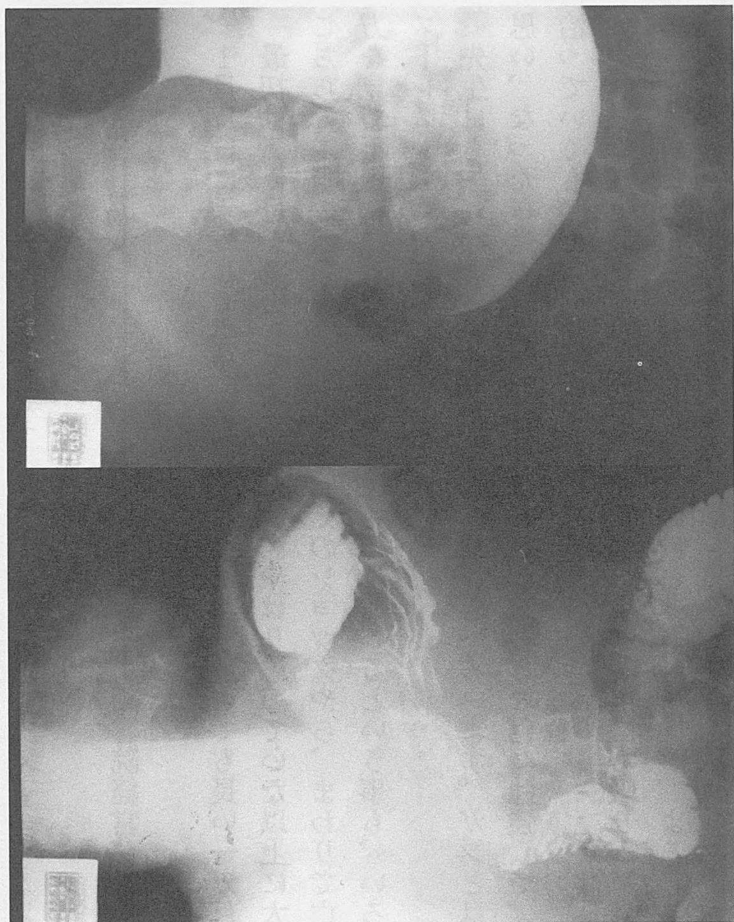
②一年中、目頭のかゆみがとれなかったのが治った事。

③全身の黒皮状態が完全に治癒。

④下半身の冷え症が完全に治癒した事。

思い起こせば、何軒もの病院に通い、治るわけでもないのに、多額の金を払い、西洋医学に不信を抱いていた私です。これ程の健康を与えてくれた佐野外科との縁を、ペンでは書き表せないくらい、幸せなこととしみじみ感じています。

尚、この手記が少しでも多くの、末期ガン患者の生きる望みとなる様に念じています。



①胃ガンのため、食物が小腸に送られずに胃が異状にふくらんでしまっている
②手術後3カ月、半分ほど切った胃は順調に回復し、食物も小腸へ通るようになった

4・4　悪性リンパ腫を知って

美容院経営　杉本　宏　40才

1月17日に入院して早や一カ月、僕にとってはとても長い一カ月でした。最初は三カ月を覚悟して来ましたが、やはり思っていた以上に大変でした。こちらで本当の病名をガンと知り、そのショックやら、まわりで亡くなられた方を見て不安になったり、家から遠く離れているという事も、いろんな意味でストレスとなった気がします。

先生にも失礼な態度を取り、申し訳なく思っています。ガンとは不治の病と思い、なったら死ぬと思っていましたが、こちらで色々勉強して、努力すれば治っていくものだと確信しました。

こちらでの生活をもとにして、油断する事なく出来る限りがんばろうと思っています。これからも色々お世話をかけると思いますが、よろしくお願いします。

佐野先生に命を救ってもらい、希望を持たせていただいた事は忘れません。

4・5　結腸ガンが肝臓に転移していた

会社社長　北野　作助　53才

結腸ガン手術後から一ヵ月後、異状なしと思っていた肝臓にガンが残っており、このままでいると一年の命と先生に告知され、1月8日入院、この日よりガンとの戦いが始まりました。

入院と同時にビタミンの点滴、丸山ワクチンをしていただき、安心したのか数日ぶりにぐっすり寝られました。その後、尿・食事・すべての治療を守り、12日の4日目頃、頭の一部が痛み始め、顔に吹き出物も出始め、先生は好転反応が現れ始めたとの事、頭の痛さがおさまった後15日の一週間目頃より、体がだるくタンが出始め、微熱が出るようになり、先生は静かに寝ているようにとの事で、ほとんど一日中寝ている状態でした。

10日すぎた頃より食欲がほとんどなくなり、吐き気もし、尿・宝命茶・はちみつジュースを少々飲むだけになり、起き上がるのが苦痛となり、トイレに行

くのがやっとの状態が10日位続き、先生は好転反応だから大丈夫だといわれたものの、ガンが体中に広がったのではと不安になりました。

夜になると眠れぬ日が数日続き、先生は何年もかけて出来たものがそんなに早く良くなるわけがない、何も考えずとにかく今はガンに勝つことだけに努力せよとの言葉を聞き、仕事の事もガンの事もあまり考えず病院の治療だけに専念し、必ずガンに勝ってみせると思い直しました。

入院して2～3週間のこの頃は、ほとんど寝ていた状態で、少し歩いてもふらつき、体中は次から次と痛く、思考力も落ち、頭はボーとしてこのまま動けなくなり死ぬのではと思い、残してきた仕事の事がいろいろ気になり、不安でいっぱいでした。

2月に入り第二段階に入った頃、看護婦さんまた他の患者さんに食べなければいけない、食べて歩かないと動けなくなりますよと忠告され、これは何とかしなければと今度はあせりを感じ、無理にでも少しずつ食べ、昼は何とか起きているように努力をし始めました。

4週間頃より食欲が少し出るようになると、背中が異状に痛くなり、検査の

結果異状なしとの事で、これも好転反応のようでした。

5週間の頃になると、おなかも少しすくようになり、タンも出なくなり何となくガンも停止しているんじゃないかと思うようになり、先生に相談しますと、腹水、黄疸も今のところ出ていないようなので、この治療を守っていけば大丈夫との言葉をいただき、7週目の25日退院を決めると、体力が出るよう食事も多めに食べるようにしました。

頭の中で生と死の交差するこの約二カ月の間、いくらがんばっても病気に負けそうになった時が何度かありましたが、先生のガンバレヨ！の言葉を聞くと、またガンなんかに負けられるか、がんばろうという勇気が湧いてきました。

我がままを言って迷惑をおかけしましたが、退院する事が出来、今後はこの病院で学んだ事をしっかり守り続け、これから先何年もガンと戦って行く覚悟でおります。

佐野医院に入院しまして、同じ病の皆様、また家族の皆様にもいろいろ教えていただいたり励ましていただいたり、勉強させていただきました。今ガンは死の宣告です。大病院の死の治療をせず、この病院の治療を知り教えていただ

き、希望を持ってこの先、生活出来る事は本当に幸運であったと思っております。このような病院が早く多く出来てくれる事を望みます。

最後に院長先生、看護婦さん、スタッフの皆様、いろいろ暖かい御看護、励ましの言葉感謝致しております。本当にありがとうございました。

4・6　四年前に手術した甲状腺ガンの再発もなく

―佐野外科医院役員　佐野　愛子　50才

十数年前に右の首が少し腫れていたのを内科の先生に指摘され、甲状腺膿腫と言われました。別に痛くもかゆくもなく、そのまま数年が過ぎ、四年前に膿腫が急に大きくなり、主人は専門家でしたので、弟の勤務する浜松医大にて手術をしました。

膿腫の奥深い所に一部癌があり、カプセルが破れていたそうです。

そして退院直後に主人より癌である事を告知されました。知らされた時は大変なショックでした。二人の娘はまだ大学生、上の娘は保母になり下の娘は医者になり、主人の後を継ぎ、病院内を白衣姿で滑歩するまでは、私は絶対死ねないのだ、何が何でも癌なんかに



負けてたまるかの気持ちでした。

そんな時主人より尿療法を勧められ、やるからには夫婦でやろうと昭和62年4月27日、娘の誕生日に、丸山ワクチンと共に始めました。

尿療法を始めてから改善した所は数しれずです。

まず、便秘が治り、手足が冷たく、夜はなかなか寝つかれなかったのが、血液の循環が良くなり、体内が暖かく、喘息もおきにくくなり、陰にこもる性格も明るくなったと、皆に言われる今頃です。

今の所癌の再発もなく、元気に頑張っています。

私の治療方法は抗癌剤を使わず、免疫療法、尿療法、自然食栄養法等行っています。

尿療法とは全く、不思議なものです。

一生飲み続け、元気で長生きする事が、この療法を立証することだと信じて疑いません。

4・7　5cmほどの肝臓ガンが1cmにまで縮小した

会社員　吉田　三郎　54才

エコーに写ったガンが、約二カ月の尿療法と免疫療法で跡が少し残っているだけになり。1月27日に退院。

その時私は、佐野外科医院院長先生の顔を凝視していました。そして一瞬の目眩を覚え、先生の話を上の空で聞いていた事だけを今思い出しております。「あなたはガンだ」先生のこのお言葉が、私にとってどれほど大きなショックでありましたことか、今思い出せば私は何とオメデタイ男であったことかと情けなくなりました。と申しますのは、去る昭和63年4月2日に胃と脾臓の全摘出手術を受け、その折妻にはあと3カ月の命と宣告されていたのでした。

何も知らない私は妻の作る毎朝の野菜ジュースのコップ一杯のお陰だったのか、至って順調に回復し、大変調子がよかったのでありました。

ところが本当の病名を知らなかったことが裏目に出て、2年経った平成3年

3月より、毎日早暁まで約3カ月無理に体を使いました結果、7月頃より体重が10kgも落ち、会社から休暇を頂き自宅療養致しましたが、一向に好転せず、とうとう声まで出なくなってしまいました。
思い余って壮快で知った佐野先生をおたずねし、相談をさせていただいたのが11月13日、その結果が冒頭の言葉であったわけです。

その日は辞して帰阪致しましたが、女房に長い間迷惑をかけすまなかった、と言ったのが唯一の会話で、佐野医院院長先生が「俺はお前のガンなぞ治してやる自信があるから、はっきりガンと言ってやったのだ」という本当に心強いお言葉を聞いておりましたので、不安はずい分と軽くなってはおりましたが、数時間の車内は殆ど無言でした。

しかしその車内で先生に救って頂くことを決心しておりました。そして壮快では今一つ分からない、尿療法の奥義を会得したいための強い気持ちも働いていました。

平成2年11月27日より入院をお願いし、現在59日が経過し、入院時5cmほどの大きさのガンが、今では1cm位と大変小さく、先生はもうガンは死んでいる

と激励して下さいました。

今は体重が60kgと軽目ですが、血色が大変良く、自信を深めさせてくれます。

ここで忘れてならないことは、この佐野外科医院で良い薬、良い免疫療法を実施して頂いた事と、院長先生の必死の医療によるものと思います。

当時相対的にも私も治療に必死に取り組みました。その為前半は1カ月5～6回（約800cc）の飲尿を、後半は8回以上（1000cc以上）と増量致しましたところ、途端にずっと昔のそれも子供の頃に痛めたものまでが好転反応として吹き出して参りましたのには、一体いつはてるものやら懸命に耐えてきましたが、最近ようやく快方に向かい、安堵致しております。

それにしても尿療法がこんなにもガンに効くものかと驚くと同時に、佐野医院院長先生の様なこの道の第一人者の手当を受けられたことが幸福だったと大感謝致しております。

これからは自分で更に改善する努力あるのみです。

4・8　重症の直腸ガンを克服して12年

佐野外科医院職員　丸山　勇　57才

私は、直腸ガンで半年の命と言われましたが、丸山ワクチンの注射と、クレスチンの内服薬（猿の腰かけの粉末）の免疫療法と、ブドウ糖の点滴をやって頂き、十二年間生き抜いた者です。私の体験を皆様にお知らせしたいと思いお書き致します。

私がこの病気になる前は、染物工場で働いていました。朝7時から夜7時までの仕事で、夜勤も夜の7時から明朝7時までの重労働の仕事でした。

水を使う仕事で、一日中長靴をはいての仕事なので、とても冷えるのです。そんな事から便がだんだん細くなり、トイレに最初は3～4回位だったのが、日が経つにつれ、回数が多くなり仕事にならない為、思い切って病院に行く事にしました。

甲府のある胃腸外科病院に行って診察を受けたところ、即時入院して手術を

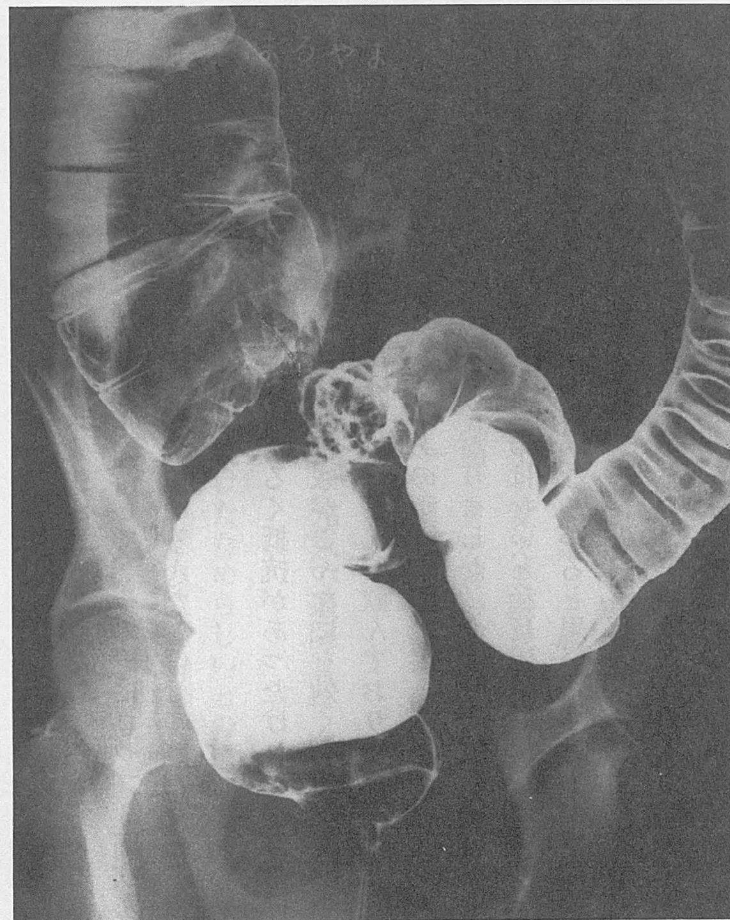
しなくては命取りになると言われ、すぐ親を呼んで話をするからとの事でした。
私は先生にどういう病気ですか、と聞いたところ、腸に潰瘍が出来ているので便が出にくくなるとの説明でした。
それからすぐ入院し、検査を6日間し、検査検査で体重が10kgも減ってしまいました。3月8日に手術をやって頂きました。
手術をする前に院長先生が、丸山君は人工肛門をつけなければならない、といわれたので、何とかつけない様にお願い致します、と言って手術が終わって病室に戻ってから、私が最初に言った言葉は人工肛門にしたかどうか、と無意識に聞いたとの事です。
麻酔がさめて母から人工肛門はつけなくて良かったと聞いた時、私は涙が出てたまりませんでした。本当に先生有り難うございました。その時私は、どんな事かあっても元気になってみせるぞ、と自分に言い聞かせました。



だけど手術後、体の具合が良くなく、熱が上がったり食欲がなくなり、とても体がだるくなり、私は考えてしまいました。ここで弱気になってはだめだと思い、子供達のために頑張るんだと、毎日毎日自分に言い聞かせていました。日が経つにつれ、体調も良くなってきました。私と同じ手術をやった二人は、3週間で元気になって退院しました。私だけは退院の日がいつになるかわからないとの事でした。
私は重症だと感じました。家の人達も、頑張らなくてはだめだぞ、食べたいものがあれば何でも買ってきてやるから何でも食べな、なんて言うので私はガンではないかと自分で感じました。
それから母が壮快の本を買ってきてくれたので読んだところ、中道町の病院で、丸山ワクチンの免疫療法をやっているとのことが書いてあったので、退院した二人にも話しましたら、私達は手術した病院で治療を受けるからとの事、私だけ退院したら行くことにしました。
それから80日目に退院する事になり、明日家の人達と佐野院長先生の病院にお願いにいったところ、丸山ワクチンの免疫療法をやっていただけるとの事で

した。
それに病弱の私まで働かせて頂けるとの事で、私は本当に人情のある先生と感謝致しました。私の家庭も生活があまり良くなかった為、病院勤めさせて頂き、経済的にも大変楽にして頂き、感謝して居ります。
私も病気を治すと同時に、何でも覚えて院長先生の片腕になるぞ、と一生懸命頑張ってきました。治療は丸山ワクチンの注射と、内服薬のクレスチンの免疫療法と、ブドウ糖の点滴をやって頂き、日増しに身体の調子が良くなってきました。
その後話を聞いたところ、私より元気で退院した二人は、一年位前に亡くなってしまったとのことでした。
その人達は、制ガン剤を飲み続けたためらしいとの事でした。制ガン剤の怖さをつくづく感じました。免疫療法がどの位延命効果があるかお分かりになったと思います。
私は夕方になると腹が張り、とても具合が悪いのです。それに便秘はするし、体はだるいし、仕事が終わってから点滴をして頂かなければ帰れないくらい疲

れました。
それから61年4月26日に院長先生が、尿を飲むと体が元気になるから尿を飲んでみろ、といわれたので即時実行して、その日にコップ3回飲んでみました。飲む時もこの尿を飲むと体が元気になるんだと信じて飲んだので、少しも抵抗はありませんでした。
明朝、いつも起きるのに体がだるく抵抗があったけれど、その抵抗がなくなっているではありませんか。私は尿がこんなにも効くものかと感心致しました。それからという日は毎日出る尿はほとんど飲んでおります。
2週間位飲んだでしょうか。あの頑固な腹の張りが消え、便秘は治り、体のだるさもなくなり、顔色も良くなりました。今までにいろいろな事をやってみましたが、尿療法くらい効くものはないと私は信じて居ります。
私の様な患者さんも全国にはかなりいると思います。制ガン剤はなるべく使わなく、丸山ワクチンと、クレスチンの内服薬の免疫療法、尿療法とブドウ糖の点滴と、ビタミンCの大量点滴をやって頂ければ、延命効果があると私は信じて居ります。



直腸のＳ字状結腸がガンでグチャグチャになってしまった状態。
12年前のレントゲン写真

4・9　ガンのため直腸の太さが5分の1に

会社員　高田　善道　62才

前略失礼申し上げます。

家内入院中は院長先生始め皆々様には大変お世話に相成りました。厚く御礼申し上げます。お陰様で元気にて退院できました事、重てお礼申し上げます。

申し訳ございませんが、私くしの体験と合せ代筆させて頂きます。

家内が体調を崩し昨年五月末、直腸癌と診断され、手術をする様申し渡されました。「マサカ」自分達はと驚くと共に、あわてました。何とも言葉にならない驚きでした

そんな時たまたま昼は見た事のないテレビのスイッチを入れた所、尿療法の放送をして居りました。早速放送局に問合わせ先生を知り、お訪ねしました。

色々と尿療法に付お話を聞きまして、早速始めさせて頂きました。

其の後、家内も女子医大にて手術を致しましたが、(病状が大変進み、直腸が

五分の一位細くなって居りました）其の後、九月中東京女子医大を退院致し、佐野先生にお世話になり、昨年11月半ば退院、元気にて帰宅致しました。元気にて毎日を過して居ります。

始めは尿という物に対する感じは、只々不要なもの、汚いもの、排泄するもの丈でした。先生から色々とお話を伺って、早速始めました所が、私くし自身三・四日すると、早々に身体全部が「カユク」なりました。

驚くやら心配するやら、其の内何日かすると、忘れた様に何もなくなりました。と共に何か身体が非常に軽く感じる様になると共に、便通が良くなりました。また欲目か頭髪が気持黒くなった様に感じます。

自分でも驚く程顔色が良くなりました。家内も共に始めて、女子医大入院中は思う様にできませんでしたが、「諸般の事情で」佐野先生にお世話になる様になりましてから今日迄、尿療法をやらせて頂いて居りますが、私くし同様顔色は非常に良くなり、便通も整い日一日と体の調子も良く、入院前の状態に戻りつつあります。

お陰様で希望を持て、益々養生に励む所存でございます。これからも宜しく

お願い致します。申し遅れましたが、種々ご心配に預かり有り難うございます。取り急ぎ御礼まで。謹書。

おわりに

佐野鎌太郎

尿療法が世に問われて、はや3年の年月が流れんとしている。毎月の発行部数は20万部を誇っていた健康雑誌「壮快」も、50万部に増版しても、なお且つその需要を充たさないのが現状である。

全国の飲尿者は、１００万人を超えるという。誰言うともなく、飲尿者を現代の隠れキリシタン、とさえ言っている。

そういう点から見ると、その数は１００万人を優に超えている事は、想像を絶しない。

一般大衆は決して馬鹿ではない。無料で難病に効果があり、副作用もないとなれば、この尿療法の普及はとめどもなく進み、日本全土のみならず全世界に普及するであろう。

この普及の課程に於いて、人為的な妨害が起こり得るかも知れない。然し正

しいものは、常に正しいものであるから、この妨害が起きた時には、我々飲尿者が、声を大にしてその効果を宣伝すべきだと思う。

そこには、何等利益にからんだ下心があるわけではなく、自分の健康と同じく、他人の健康をも切望する善意のみがあるからである。

現代医学も、日夜医学者の献身的な努力により、その進歩は目を見張るものがある。科学の発展が核を生み、これが悪用されることによって人類の破滅を招くと同様に、各分野で発展しすぎた医学的知識が、多種多様の薬を生み、人間を薬漬けにし、養生を忘れさせ、薬に依存する心を増大させ、また行き過ぎた手術技術、及び放射線療法等が、ついに人間の生命のメカニズムのバランスを崩し、死を早めているとも言える。

この様な時期に今から四千年も前に印度で普及した尿療法が、再び脚光を浴び、経済発展の最右翼にある日本に於いて再確認されつつあるということは、我々日本人にとって、大いに誇り得るものである。

さて、尿療法によって、西洋医学でははかばかしい効果がみられなかった慢性疾患が次々と良くなっているという報告に接して、医師として驚きでもあり、

またこの上ない喜びでもある。
尿療法はまさに20世紀の人類を救うべく、その輪をだんだん大きくしてゆきながら一人歩きをしているのである。
慢性疾患は決して突如として起きるものではない。一つ一つの病気になるべき要素が、積もり積もって慢性疾患を形成してゆくのである。
我々は自分が健康だと思っている時でも、一杯の尿を飲む事によって、慢性疾患の悪い要素が積み重なっていかない様にするべきである。
不幸にして癌に羅患してしまってから、制ガン剤も服用せず、手術もせずに出る尿を全部飲み干すことによって、ガンが快方に向かっているという報告も少なくない。
さまざまな病気にならない為にも、転ばぬ先の杖として、日頃より健康に留意し、予防医学的な意味で飲尿されれば、決してガンにならないと私も信じるし、また不幸にしてガンに侵されても、飲尿によって治し得れば、経済的にも自分のみならず、家族も大変助かるものと考えられます。
この尿療法が以上述べた様な課程を踏まえて、現代の不治の病といわれるガ

ンとか、エイズとかを征服して、輝かしい21世紀に向かって、人々が平和で健康な地球を形成してゆくことを切望するものである。
終わりに、本書の上梓に当り、ご協力を頂いた、私の恩師に当る、東京女子医大名誉教授、日本医学協会会長、織畑秀夫博士。尿療法の日本最初の提唱者である中尾良一先生。「壮快」の皆様。国立音楽大学教授、花村光浩先生を始めその他の投書を頂いた方々、又私の病院の職員一同に深く感謝する。

著者略歴

佐野　鎌太郎　昭和11年1月8日静岡県生まれ。
新潟大学医学部卒業、武蔵野日赤病院にてインターン修練後東京女子医大外科に入局。心臓の世界的権威、榊原　壬教授、ガンの世界的権威、中山　恒明教授、元日本医学協会会長、東京女子医大名誉教授、織畑　秀夫教授に師事し、博士号取得後、外科講師となる。昭和47年過疎診療を目指し、山梨県古墳の町、中道町に開業。平成元年12月、医療法人三矢会佐野外科を設立、理事長に就任し現在に至る。

ガンに勝った尿療法　　定価 1,000円(本体971円)

ISBN4-7952-4759-5　C0077　P1000E

著　者　佐野　鎌太郎

発　売　星雲社
東京都文京区小石川5-19-25
☎03(3947)1021

発　行　㈱日経企画出版局
東京都杉並区高円寺南4-22-1
☎03(3316)1948

印刷・製本　㈱フリオール

1991年7月15日　初版第一刷